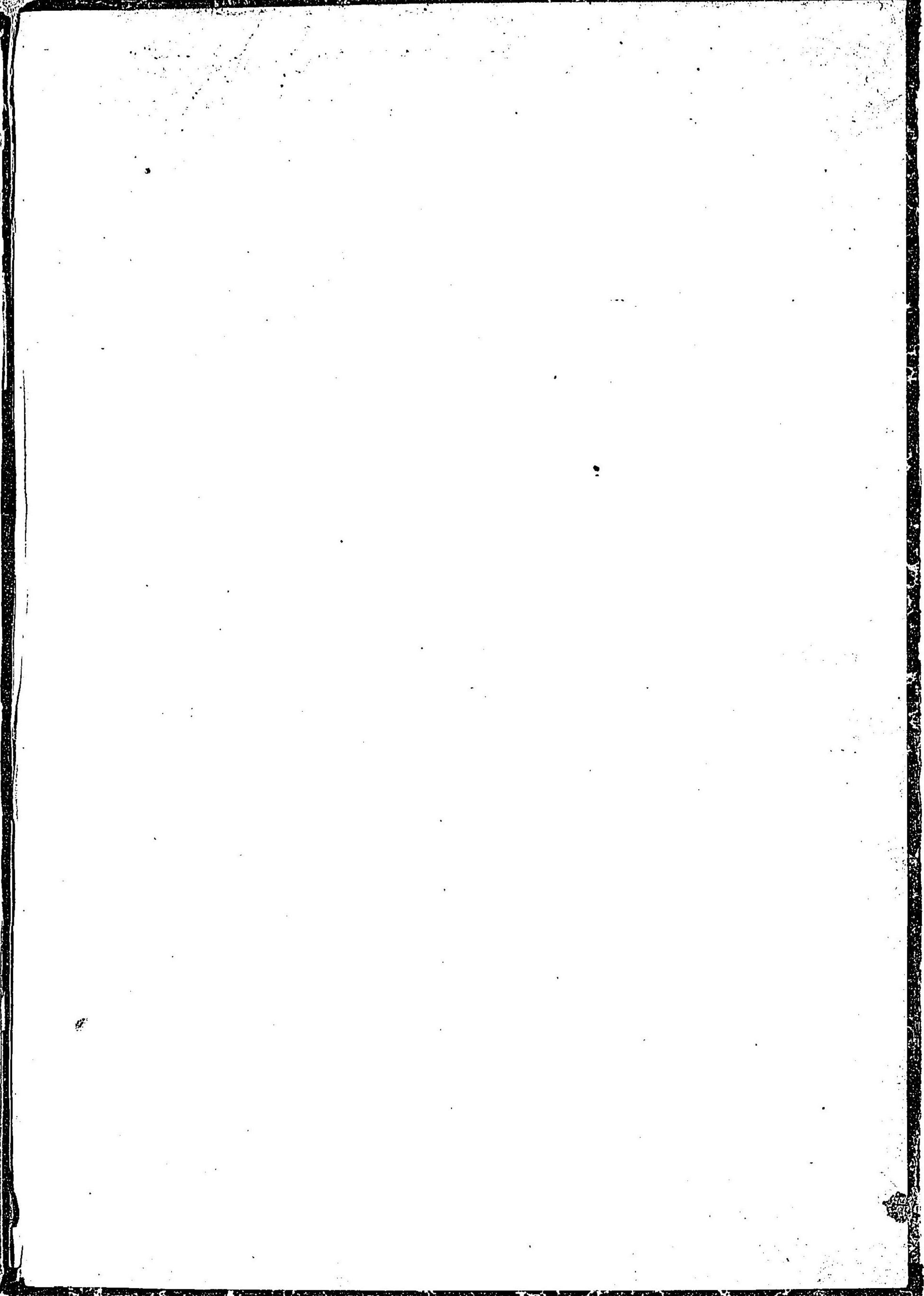
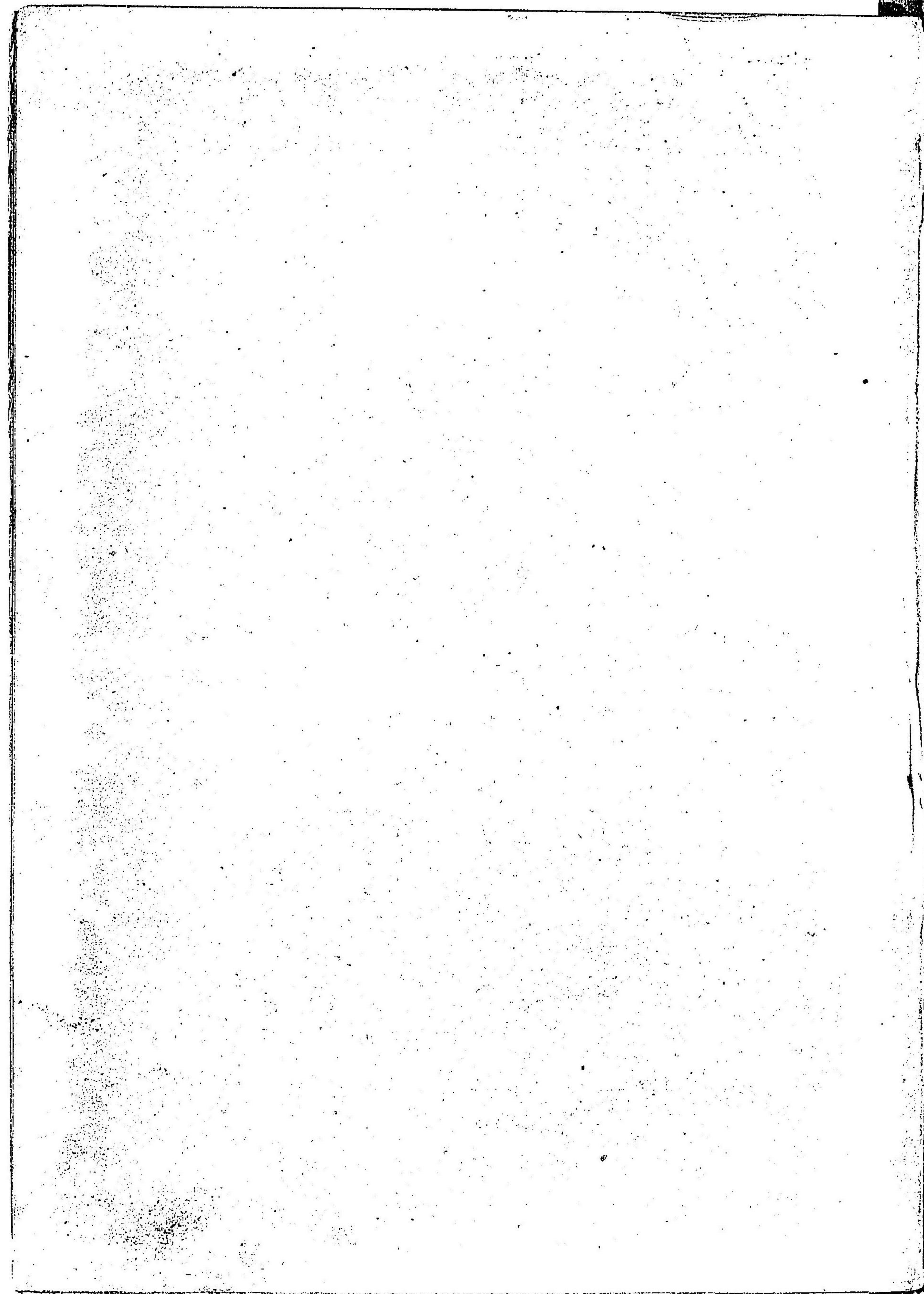


医

9

卵巢囊腫治驗錄

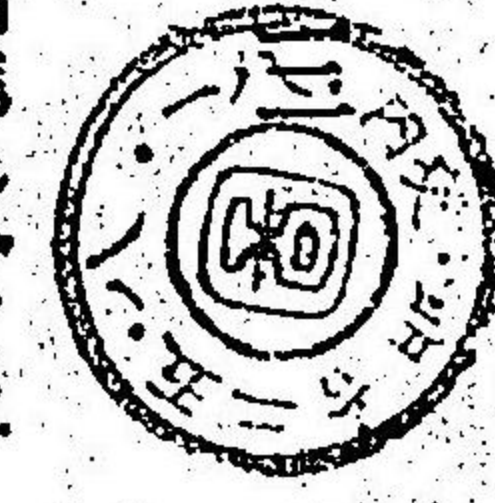
初號



1166 / 25
医-9

卵巢囊腫治験録初號

吉田顯



○惣体論

今を距る十餘年前までは本邦に於て卵巢切除術を施せし者殆ど寥々聞ことなかりしが爾來此術漸く開進し今日に至りては各府縣に之を行ふ者あらざるなく其成績の如きも甚た良なりとす不肖余の如きも先年居を大阪に占し以降幸に婦人科者接すること多く隨て本術を施せしこと尠からず因て業務の餘暇各患者に係る治験を順次に列記して治験録を編し以て後日此考證に留めんとするに至れり而して今や患者五十名に係る治験の調査を結了したれば之を第一號とし自餘の治験は他日第二號の材料に充つべし但し余が此治験録を編するや専ら簡短を旨とせるか故に治験上關係の薄き事項は務て之を省略せり余は各患者の治験を記する前に先づ患者惣体の概況を述べ次に準備 防腐 手術 後處置及び成績等を記すへし蓋し余が實施せる準備 防腐及び手術等の如きは現今専ら世上お行の者とは多少異なる所あるべく殊に防腐法に至ては嚴寬の別あること余自ら信して疑はざればなり

若者は十九歳より今之を細別すれば左の如し

- | | |
|-----------|-----|
| 十九歳 | 一名 |
| 二十歳乃至二十九歳 | 十三名 |
| 三十歳乃至三十九歳 | 十七名 |
| 四十歳乃至四十九歳 | 十二名 |
| 五十歳乃至五十七歳 | 七名 |

○結婚 既嫁者四十六名未嫁者二名にして嫁否不詳二名なり

○分娩 既産婦と未産婦とは同數なり即ち甲者二十三名乙者二十三名にして産否不詳四名なり

○経過 卵巣嚢腫の初發時は恐らく認知し得へからざるあり何となれば最初は著しき症候を呈せざるか爲め診察を醫に求むる者あらざるへければなり左に掲ぐる者は只患者自ら下腹に塊物あるを發見せし時より余か診断を下したる時に至れる間の経過を示すも過ぎ但し五十名中経過詳みらざる者は茲に載せず

- 一年未滿の者 八名
- 一個年餘を経たる者 十名
- 二個年餘を経たる者 五名
- 三個年餘を経たる者 九名
- 五個年餘を経たる者 三名
- 六個年餘を経たる者 二名
- 七個年餘を経たる者 二名
- 八個年餘を経たる者 一名
- 九個年餘を経たる者 一名
- 十個年餘を経たる者 二名
- 十三个年餘を経たる者 二名
- 十四个年餘を経たる者 一名

嚢腫發生の遲速は其種類に關係せざるか如し何と云ふは複房腫にして僅に五個月を経たる後巨大の容積に達せし

者あり(第二十二號患者)之に反して單房腫にして七個年の後初て患者の不便を來せし者(第二十九號患者)あればなり又アルモイト腫は其發生緩慢あるを常とすれども未だ一年に達せずして大人頭大に及びし者あり(第四十九號患者)

○一般の狀況 患者惣体お就て云へは一般狀況の不良ある者甚だ多かりき五十名中従前の如く家事を執り得る者は僅に十四名にして其餘三十六名は肚腹膨脹、下肢及び腹部の浮腫全身衰弱若くは合併病の爲に家事を執ること能はざりき其中或は起臥自由ならざる者もあり或は床上に仰臥して其身を左右に轉動すること能はず大小便も其位置に在て排泄するか如き懸然の狀況を呈せる者もありき其他種々の合併病を存せし者も亦尠からず就中記載すべき價値ある者は左の如し

- 氣管支加答流に罹れる者 三名
- 肺に異常ある者 二名
- 尿中蛋白を含む者 一名
- 腹水を兼たる者 二名
- 流産後褥熱の爲め甚だ衰弱せる者 一名
- 下肢に浮腫ある者 九名
- 下肢及び腹部に浮腫ある者 四名
- 嚢腫の化膿せる者 一名
- 嚢腫の破裂せる者 六名

今患者惣体に就き其狀況に従ふて區別すれば概ね左の如し

(甲) 肚腹膨脹の他に異常なく従前の如く家事を執り得る者 十四名
 (乙) 従前の如く充分に家事を執り得る者 十三名
 (丙) 全く家事を執り得るも尚能く自用を辨し得る者 二十名
 (丁) 他人の助を藉らされは起臥し得る者 三名

術后死亡せし者總て四名あり其中甲に屬する者一名、乙に屬する者二名、丙に屬する者一名なり而して丁に屬する者則ち最も不良の状況を呈せし者に一名の死亡なかりしは一奇と謂ふべし

○患側」 五十名中右側より生したる者二十八名左側より生したる者十八名左右より生したる者四名なり

○瘻腫の種類」 複房腫最も多く單房腫之に亞きアルモイト甚た少く固形瘻は極めて希あり今細別すと左の如し

複房腫	三十五名
單房腫	十名
化膿せる者	一
腹膜外瘻腫	二
アルモイト	三名
複房腫兼サルコマ	一名
サルコマ	一名

○癒着」 五十名中癒着ありし者二十九名癒着なかりし者二十一名なり今其廿九名に就て細別すれば左の如し

單に腹壁のみ癒着せる者	六名
單に網膜のみ癒着せる者	十二名

腹壁及び網膜の癒着せる者	五名
網膜及び小腸の癒着せる者	一名
腹壁網膜及び小腸の癒着せる者	二名
腹壁盲腸及びS字状部の癒着せる者	一名
腹壁網膜大腸小腸及び腸窩等の癒着せる者	二名

以上患者の物休に關する状況を概記したれば是より余か實施せし手術の準備防腐術式及び後處置等を要述すべし

○術前の攝生」 術前數日間は患者に命するに滋養物を食し戶外に運動し毎日入浴すべきことを以てせり然れども此等の攝生法は充分に行はざりき總て女患者は淡薄無味の食物を好みて獸肉類肉煮汁及び牛乳等を用ひ得るもの甚だ少なく特小之を給するも食せざる者十中の七八に居り而して余は午後一時に手術を行ふを例とせり因て當日は患者をして只朝食のみを取らしめ其他の食物を用ゆることを禁せり然れども此禁を犯して粥に芋餅等を食する者往々之ありて術中術後の吐物を認め其實を證せしものと少からず是を患者自ら腹力を養ふて手術に堪んことを望むの切あるより出たる所爲あらんとは雖も亦た甚しと謂ふべし戶外運動も亦た充分に行われざるなり是れ一は患者の嫌て爲さるに因り一は其身体狀況の許さるるに因れり余の實驗を経たる患者全數五分の二は腹部甚しく膨脹し若くは全身甚しく衰弱するか爲め適宜の運動をなすこと能はざりき入浴の事は後に述へし

○術前穿腹術」 瘻腫の巨大なる者或は巨大ならざるも甚しく内器を壓迫して其機能を妨ぐる者例之呼吸短促心臟轉位食思缺損尿量減少及び下肢に甚しき浮腫あるか如き者には余は術前穿腹術を施すを例とせり何となれば大抵本術を行へば常に呼吸緩み心位復し食思振ひ尿量増し浮腫去る等總て佳候を呈するのみならず術中術後の利益亦大きはあり余か未だ切除術の實驗に富まる時に當ては甚しく緊張せる大瘻腫にも務て穿腹術を行ふことを避

けたるあり然るに切除術中呼吸怠り心機沈みて依的兒皮下注射及び人工呼吸等の救急處置を要せしこと屢々之有りき因て以爲く是れ或は術中一頓に腹腔内壓を減するの結果なるへしと是に於て手前記の如き狀況ある患者には穿腹術を施すを例とするに至りしなり然り而して爾來斯の如き事變に遇ふと極て希なり是れ或は余の臆想の當れるにはあらざるか從來卵巢腫に穿腹術を行へば種々の不利ありとして之を戒むる者多きは彼の嚢内出血を起し又は化膿を誘ふ等の事は姑く措き其常に慮る所は刺点より腹膜炎を發し癒着を來し後日切除術を行ふ時に當て大なる不利ありと信するに在り然れども余は未だ曾て本術の爲め癒着を致したりと思へる、ものを見ず縱令其説の如く果して癒着を發するも太甚しからざれば施術上大なる妨碍なく又た成績上に甚しき關係を及さざるものと信す余は曾て穿腹術を受けたること八十餘回及ひたる者の屍体を剖檢して一点の癒着を見ざりしことありき又た本號を掲ぐる五十名の患者中二十二名は穿腹術を受けたるものなりしか一名を除く外は皆全治せり而して其一名は切除術後三日を経て斃れたり但し本人は左右二個の多房腫兼サルヌマに罹りてありしのみならず一個は切除し得たるも他の一個は甚しき癒着ありたるか爲め切除し能はずし者に係れり此不幸者の外尚ほ三名の死亡者ありしか皆穿腹術を受けたることありき者お係れり

○患者身体の消毒　術前數日及び當日には必ず患者をして入浴せしむ但し特に浴湯を設くるおあらず只可及的他人に先つて入浴せしむるのみ本號に掲ぐる患者の中若干名は衰弱の爲め入浴し能はずしものあり此の如き者おは單に看病婦をして身体を拭淨せしめしのみ施術に臨みて腹壓を消毒するには二十倍石炭酸溶液を用ゐたり但し罕に千倍昇汞溶液を用ゐたることあり而して余は特に髪を洗ひ爪を剪ることを命せず又た陰毛を剃り腔内に防腐物を挿入せらるか如きは余また未だ曾て行ひたることあらざるあり

○患者の被服　施術の當日には入浴後直に新製のフロンネル襯衣及び股引を着て別室に入り手術時の至るを待

たしむ但し夏日は特に襯衣及び股引を用ゐずして尋常の單衣を以て之に代らしむ其他上衣に至ては只可及的清潔なるものを着すへき旨を諭すのみ

○病室及び臥具　初め二三名の患者には病室にあらざる一室を以て臥室に供せり然れども其後は總て尋常の病室中閑靜なるものを撰て之を用ひき而して初め數回は丁寧洒掃したる後防腐藥の撒布を行ひしも其後は只尋常の掃除のみを施せり又寢臺は初め在來の木製品を拭淨して用ひしか近來は寢臺に代ふるに厚き藁蒲團を用ゐるに至れり是れ別に趣旨ありて然かするにあらず單に院内の便宜に従ふあり又蒲團と新に洗濯を経たるものを用ゆと雖ども其内綿の如きは消毒を施したるものゝあらず室中の温度には別に注意を加へず冬日は湯婆を用ゐて温を補ふのみ

○手術臺及び手術室　初め兩三回は常に人の出入少き一室を於て手術を行ひき但し其消毒は前記述たる病室の消毒に異ざるよし其後手術は總て普通の手術室に於て行ふこと、爲せり而して單に尋常の洒掃を施すのみにして蒸熱の如きは未だ曾て行ひたることあらず手術臺及び附屬品にも尋常の掃除を爲すの外特に消毒を行はざるなり

○術者及び助手等身体の消毒　前に述たる如く手術は午後一時に行ふ例あれば術者及び助手は種々の不潔體即ち入院及び外來の患者お觸接したる後なり然れども特に髪を理め爪を剪り湯に浴し衣を換ふる等の注意を加へたるよしおし只石礫と温湯とを以て丁寧に前膊手部及び諸指を洗ひ殊に意を用ゐて爪垢を去り更に二十倍石炭酸溶液若くは千倍昇汞溶液にて之を消毒し術中は四十倍石炭酸溶液若くは五千倍昇汞溶液を以て屢々之を洗ふのみ曾て常服の上に新に洗濯を経たる上衣を着せしか近來に至り之をも止めて尋常の手術衣を用ゐるなり右の如くなるか故に身体の消毒ハ極て簡易なりと謂ふへし

○器械及び海綿等の消毒」 總て器械及び海綿は先づ二十倍石炭酸溶液を以て消毒し次で四十倍溶液に浸漬して使用に供し術中の同一の溶液を以て洗滌せり但し曾て海綿を洗滌するに五千倍昇汞溶液の單に沸騰を経たる蒸餾水を用ゐたるまどありしか其成績上少しも異常を見ざりき

○スプレイ」 余の初て本術を行ひし以降術中「スプレイ」を用ゆるを例とせり實に三十有餘名の患者に皆之を行しか其後全く廢せり余の素と高度の近視眼に惱めり故に「スプレイ」を用ゆれば眼鏡鼻りて甚だ不便を感ずるあり此不便あるにも拘らず常に之を用ゐたるの他なし一の防腐的外科術の原式を遵守したると一の余の實驗之しきか爲め之を廢するの勇氣なきとに困り然るに三十有餘名本術を施すに際して種々の事由ありて「スプレイ」を中止せしこと尠ならず例之裝置の破損せる時の如く或の擔當者の未熟なる時の如く或と誤て不潔物を腹腔内へ挿入し又の腹腔外に脱出したる腸管に觸接せる時の如し斯の如き偶然の事故ありて中途「スプレイ」の放散を止めしにも拘らず成績上異變を來さ、りしを見て遂に全く之を廢せしなり實に余が「スプレイ」を廢せしは彼歐洲に於て其不用論の起りし報に接せし以前に在りき

○傍觀者」 員數及び身体上の注意は防腐法の原則に關係あるや明なり此旨趣に基き初め二三回の手術に關係なき者の一切手術場内に入るを許さ、りき生徒の如きも人員を限り硝子戸を隔て手術を傍觀せしめしか手術實況の充分に見難き故に種々の苦情起りしより五名を限り場中に入るを許せり然るに時の事情より漸く其人員を増さ、るを得ざるに至りて十名とあし十五名とあし遂に上りて二十名まで場中に入るを許すと、爲せり故に場内への術者助手看護病人及び生徒等を合して三十名以上の人員を見るに至れり然り而して初は傍觀者をして前日及び當日の解剖局に入り或の病人に接することを禁し可及的清潔の衣服を着し履靴の如きも場外に於て脱せしむる等の注意を加へしか其實際に行われし僅に七八回に過ぎざりき其後の人員に制限を立てたるの外尋常外科術を傍

觀せしむる時と敢て異なるべきに至れり

○腹壁切開」 單房腫にして癒着なければ僅に七八仙迷の創口を作るを以て足ざり然れども余の容易に手腕の挿入し得らるべき創口を作るを例とす若し腹壁頗る厚く又の甚しき癒着あり又の囊体の容積減し難ければ適宜に其創口を延長するなり但し膈上部まで延長を要するもの甚だ少し余の實驗中膈上四五仙迷の處まで延長せしもの僅に三回なりき創口の長短の成績に關係を及ぼすか如く論ずる者あれども余は未だ其説に服するまど能はざるなり又た創面の出血止まらざれば決して腹膜を開くへからずとの從來人の嚴しく戒むる所にして固より然らざるへからず然れども余の實驗に據れば創面の出血の毎に甚だ輕少にして結紮を要するか如きものは余の記憶に存せざるあり余の實驗中腹壁と囊体との間に癒着の存したるもの少からず然れども腹膜を囊壁と誤りて之を剝離せしむるべく又た囊壁を腹膜と誤りて切開せしむるべきと余の僥倖と云ひざるを得ず

○囊体穿刺」 内容物を漏し容積を減するにはスペンサー氏大管針を用ゆるを例とす然れども本器を用ゐて充分に内容物を漏し囊体を抽出し得し者の實驗患者三分の二に過ぎざりき爾餘の患者に在りては其囊体の無數小房の集合より成れるを以て本器の殆ど無用に屬せり故に剪又の刀を以て房壁を切破し其目的を達し得たりき

○莖の處置」 總て莖の復内處置を施せり即ち其廣狹長短に拘らず先づ絹線を以て結紮し次に之を切離して其殘根の骨盤内に復納せり但し其絹線の千倍昇汞溶液を以て煮たる後更に十倍石炭酸阿列布油中に浸漬せるものに係れり結紮式は左の如し先づ二個の絹線を莖の中央に貫通し其一を以て外半を結紮し他の一を以て内半を結紮し各線の両端を結紮点に接して切除するなり但し余の各線の係蹄部をして互に交叉せしむるまどを務めたり否されど莖を縦裂せしむるの處あればなり時として三個の絹線を以て莖を内外中の三部に分て結紮せしむるあり此の如きは僅に一二回に過ぎず又た莖の廣して且厚き者若くは緊紮力不充分の感ありし時の一の結紮線の両端を取り更に

他側に於て結紮せり詳に云へど蓋を内外二部に分ち結紮したる後更よ一の結紮線の両端を取り全蓋即ち内外二部を一括して結紮せしかり余は蓋の割端に藥物を用ひしよとあし但し蓋の極て短くして其割端に蓋壁の殘留するものには烙鉄を觸れて之を焼灼せり

○腹腔内の拭淨 余は毎々海綿を用ひ未だ他物を用ひしよとあらず而して其海綿を洗滌するには四十倍石炭酸溶液を用ゆるを例とせり但し近頃に至て五千倍昇汞溶液及び單に沸騰を経たる蒸餾水を試みしる成績上少しも異變を見ざりき

○癒着及網膜の處置 囊体と他部との間に癒着の存する者甚だ多し本報に掲ぐる患者五十名中二十九名は癒着を存せり斯の如く癒着の多きや恐くと長く手術を受けざりしに因るものならん何とあれど蓋の未だ甚だ大ならざる者や癒着の存するよと少けれなり囊体と腹壁又ハ網膜又ハ兩者と癒着する者最も多く小腸と癒着する者之に亞き盲腸、虫様垂、結腸S字狀部と癒着する者最も少く肝臓、膀胱、子宮其他の臓器と癒着するものハ余未だ之を見ず總て癒着の手指を以て分離せしか二患者に在てハ囊体と腹壁との間ハ強固の纖維性癒着ありて之を斷離するに絞斷器を使用せり癒着せる網膜又は癒着せざるも肥大延長せるものは數部に分ち強腸線と以て結紮切離したり又ハ腹膜外囊腫に在りて其外面を被包せる腹膜ハ剝離して囊体を抽出したる後數部に分ち絹線と以て結紮し切除したり

○出血の處置 剝離したる網膜の出血處置は前々述へたるか如し而して腸管外面の出血ハ細腸線と以て結紮し腹壁内面の出血ハ烙鉄を觸接して之を止めたり

○創口縫合 深淺二様の縫合を行ひ深縫合ハ銀線を用ひ淺縫合には絹線を用ゆるを例とせり但し銀線の使用は不利なきにあらず動もすれバ嘔吐又ハ咳嗽の爲め屈折部の破斷すると罕に之あり余ハ斯の如き偶事に遭ひたる

こと只一回のみ世上或ハ縫線を腹壁筋層に貫通するを戒むるものあり然れども余ハ内ハ腹膜より外ハ皮膚に至るまで一切の組織を貫通するを例とせり而して深縫線交互の間に存する距離は三仙迷にして其中点に淺縫合を施すかり縫合後は先つ十倍石炭酸阿列布油に蘸したるレントを創線に貼し次に腹部一般に石炭酸撒糸を置き次に石炭酸ガーゼを掩ひ更ハ綿帯を施すあり

○術後の處置 手術了れハ直ハ病室に移す余は初め阿片を用ゆるを例とせしも近頃全く之を廢せり但し疼痛を訴ふる者には莫爾比涅を内服せしめ又は皮下注射劑として用ゆる若し口渴を訴へ又ハ嘔吐を發する者には只氷片を與ふのみ他の藥劑は一切用ゆるざるなり術後數日間仰臥の位置に在らしむ故に腰痛を訴へざる者は殆ど之なし小便は加底的兒を用ひて漏し大便の通利は自然に任す但し術前に用ひし下劑の餘力ありて術後數回下利する者往々之あり然るときハ阿片劑を投して之を止む又ハ術後五六日を経るも便通なき者には偏里設林少許を直腸に注入し若くハ蓖麻子油を内服せしむ縫線は術後第六日に除くを例とす通常此日までは綿帯を交換するとなし食物ハ術後四五日は生雞卵、牛乳、肉蓋汁及び粥汁等を適宜に與ふ但し患者若し欲せざれば強て之を用ゆる其後漸く進んで半流動物を與へ遂に全く常食を給するに至るあり

○術後の偶發病 五十人中多少体温の昇りし者二十二八毫しも昇らざりし者二十八人あり嘔吐及び輕微の腰腹痛を發せざる者は殆ど希なり此等普通症の外種々の偶發症を發せし者少からず就中余をして多少痛心せしめし者を舉ぐれば左の如し

- 一 一たび癒合したる創痕の再び啓開せし者(治)
- 二 腹壁膿瘍を發せし者(治)
- 三 創口の一部癒合せずして其底に腸管の見ゆし者(治)

下腹に抗抵物(炎性産物乎)を生せし者(治) 三
 腹腔内へ氣液兩体の蓄積せし者(治) 一
 精神錯亂(治) 一
 腹水兼全身浮腫 一
 氣管支加答流(治) 五
 喘息發作(治) 一
 腸加答流(治) 二
 子宮出血(治) 四
 莖根出血(死) 一
 虚脱(死) 三

右の中死亡者四名の外一旦恢復の望絶へし者にして全治せし者三名あり即ち腸加答流一名腹水兼全身浮腫一名腹腔内氣液兩体蓄積一名是あり但し此最後の患者は其實は死亡せしも術後五個月間生存せしを以て成績上全治の中へ算入せり

○手術の成績 五十人中全治四十六名にして死亡四名あり即ち全治九十二プロセント死亡八プロセントに當れり而して其死亡四名の中一名は出血に因て術後二十八時を経て斃れ三名は虚脱に因て術後三時乃至七十時を経て斃れたり但し其中一名は術前より治療の望乏しき者あり即ち左右二個の囊腫にして一個は切除したれども一個は甚しき癒着ありて切除し得ざりし者に係れり

○術後の経過日數 全治者四十六名の手術日より退院に至る日數は術前衰弱の輕重と術後偶發症の有無に従ふ

二十日以内	九名
二十一日乃至三十日	十七名
三十一日乃至四十日	十一名
四十二日	一名
五十餘日	二名
百十日	一名
不詳	五名

術後緩慢の経過を取りたる者多きに過ぐるか如し夫れ或ら然れども中には已に全治を告ぐるも自己の望に従ひ尙は院内に在りて保養せし者も少からず

○患者

○第一號患者 I.S.

商家の妻、齡三十三歳大阪の人あり明治十八年三月廿日入院す

【病歴】 十八歳の時月經初て至りしより毎に整然として進ふとなし十九歳の時結婚せしも未だ一兒をも擧げず三年前始て臍下右方へ小塊を生し漸く増大せるを以て數醫の治療を受けたれども未だ其功を奏せず因て手術を乞ふと云ふ

【現候】 全身大に羸瘦して下肢に浮腫あり歩行自在ならず僅に自用を爲し得るのみ肚腹は甚だ膨大して其周圍一

百仙迷翹狀軟骨より耻骨縫合まで六十仙迷あり

〔施術〕 四月廿七日切除術を施す嚢体は右卵巢より生したる複房腫にして前面は腹壁及び網膜に癒着し側部は小腸の一部に癒着してありしを以て之を分離し網膜を處置するに大に時間を費せり但し網膜の大部は四個に分て結紮切除し莖は廣くして且長きを以て二分して結紮切除す内容液は褐色粘糊にして其量二十リットルあり

〔爾后経過及び成績〕 施術の翌日及翌々日は体温三十八度五分に昇れり其後は平穩にして創口は第一癒合を營み他不良術の症候を呈せず日々快路に進みつゝ、ありしか術後十四日を経て体温俄に昇りて三十七度五分乃至三十九度の間に在ること十日に亘れり初め其原因を詳にするも能はざりしが後に至て創痕下端の腫起して波動の存するを認めたり因て直に切開して膿汁を漏せしむ体温速に降て復た昇らず日々に輕快に趣き遂に全治退院するに至れり

○第二號患者 K N

商家の妻齡三十六歳大阪の人なり明治十八年十一月四日入院す

〔病歴〕 天資強壯よして未だ曾て大病に罹りたるを知らず十四歳の時月經初て至り爾來常に整然たり十七歳の時結婚して三兒を挙げたり八年前初て臍下右方に一小塊を生したれども増大せと苦楚なきが故に敢て意とせざりしが本年三月頃より急速に増長して今は歩行困難を感すと云ふ

〔現候〕 体格中等にして未だ甚しく羸瘦せざれども貧血の症狀を呈し心機元進呼吸短促を訴へ且左肺基に水泡音あり肚腹は甚だ膨脹し皮下靜脈著しく怒張せり腹圍は八十三仙迷翹狀軟骨より耻骨縫合まで四十一仙迷あり前に述べたる如く左肺基に病候ありたりしが故に術を猶豫して専ら其治療を施せり八月三十日頃に惡寒を發して体温大に昇り爾後七十有餘日間体温稽留して三十八度乃至三十九度半の間に在り此間胸部の病候は時に進み時に

退き食欲大に缺損し全身漸く衰弱し盜汗及び下肢浮腫を來せり加之腹部は益膨脹して苦悶益増加せるが故に九月十七日穿腹術を施し透明の稀液十リットルを漏して一時肚腹の緊張を緩めたり然れども其後更に漸く膨脹せるが故に十一月廿日再び全術を施せしに其内容物は全く化膿してあり是より於て胸部に病候あると体温の高度なるにと拘らず斷然手術を行ふことに決せり

〔施術〕 十一月廿日切除術を施す嚢体は右卵巢より生したる單房腫にして其内容物は膿汁なり然れども幸に癒着なく容易に手術を完了せり

〔術後経過及び成績〕 施術の當日は体温尙三十八度五分ありしが其翌日は常度に復し其他毫も不良の症候を呈す創口は第一癒合を營み胸部の病候も漸く消退し速に全治退院を告ぐるに生れり抑術前七十餘日間体温の高かりしは胸部病患及び嚢体化膿の内孰れに因れる歟の問題に對しては余未だ答ふると能はず術後体温の速に下降して復た昇らざりし事實に就て考ふれば嚢体の化膿に因れるが如くなるも体温の初て昇りしは八月三十日にして其後十七八日を経て(九月十七日)穿腹術を行ひし時内容液の透明なりしを以て考ふれば前説未だ確實なりと謂ふべからす

○第三號患者 K R

農家の女齡二十歳河内の人なり明治十八年十月十九日入院す

〔病歴〕 生來強壯あり十七歳の時月華初て開き本年六月までは常々整然たりしが其後全く閉止して復た來らず未だ結婚せず昨年六月頃より肚腹漸く膨大し現今に至ては動作稍困難を感すと云ふ

〔現候〕 貧血の症狀あれども未だ甚しく羸瘦せず腹部は緊張して橢圓形を呈し皮下靜脈著しく怒張し検査上腹腔内小液体あり又兒頭大の圓形体あるを認む因て卵巢嚢腫の腹水を兼たる者と診斷せり

〔施術〕 十月二十日穿腹術を施して腹腔内の蓄液ハリットル許を漏す其性状の粘糊なるを見て囊腫の一部破裂し其内容液を腹腔内に漏したる者なるを認知せり十一月四日切除術を施す即ち先づ腹壁を切開し腹腔内の蓄液を漏し盡し更に囊体を穿刺して其内容液を漏し法の如く之を切除せり但し囊体は右卵巢より生したる複房腫にして粘稠液を含めり尚能く之を検査せしに果て一房の裂孔を存するを認めたり

〔術後経過及び成績〕 術后嘔吐を發せ腹痛を訴たれども速に鎮止し体温毫も昇らず創口は第一癒合を營む等總て順快を経て十二月一日全治退院す

○第四號患者 K K

商家の妻齡三十六歳大阪の人あり明治十八年十月廿六日入院す

〔病歴〕 体格中等皆て痔疾及び白帶下に罹りしとあり十七歳の時月經初て至り同年結婚せしも未だ受胎したるものとあらず三年前初て臍下右方に一塊を生し漸く増長して止まず近頃に至りて下肢に浮腫を來せり曾て一醫に就き穿腹術を受たると已に二回に及ぶと云ふ

〔現候〕 全身甚しく貧血羸瘦し皮膚は一般に枯燥して其上皮片々として剝脱し下半身は甚しく浮腫せり腹部は極めて膨大し一般に波動あり強按すれば更に頭大の一塊ありて液中に浮ぶが如き感あり腹圍百三十二仙迷、劍狀軟骨より耻骨縫合まで六十仙迷、臍より腸骨前上棘突起まで三十七仙迷あり右の状況なるを以て余は卵巢囊腫の腹水を兼たる者と診断せり

〔施術〕 十月廿六日穿腹術を施して琥珀色の稀薄液殆ど二十九リットルを漏す但し此液は腹水に係れり而して其液の漏れ出るに従ひ他の塊物判然として現出せり此物の臍上部に於て腹壁と固着してあるを認む患者に事故ありて直に切除術を受くると能はすために空しく日子を送るものと月餘に及べり此間穿腹術を施すと三回ありき

十二月七日切除術を施す腹腔内に多量の液あり囊体と前腹壁との間に廣大強固なる纖維性癒着あり手指を以て分離せへからず鏈狀絞斷器を以て之を切除す其他腹壁の腹膜は甚しく肥厚して且強固其厚さ三四密迷あり内面は白色にして粗澀なり腸管の廻轉は交互癒着して其外膜は白色強鞏あること恰も鱗皮の如し囊体は右卵巢より生したる複房腫にして粘稠液を含み其莖と狭くして且つ長し常の如く之を處置す

〔術後経過及び成績〕 平穩にして体温昇らず創口は第一癒合を營み術後三十二日を経て体力未だ復舊せざるにも拘らず事故ありて退院す

其後二週許を経て肚腹膨脹の故を以て再び入院す當時腹腔内に氣液兩体の併存するを認む因て穿腹術を施して多量の空氣と多量の淡褐色液とを漏す入院五日にして退院す

十九年三月廿九日三たび肚腹膨大、食欲缺損、心下苦悶及び大便秘結の故を以て來院治を求む穿腹術を施して漿液九リットルを漏す然れども甞に食欲振はせ苦悶去らざるのみならず漸く腹痛吐逆及び頑固の便秘等腸管阻塞の症狀を發して五月七日即ち術後五個月を経て鬼籍に登れり

術后腹腔内に空氣の存在し漿液の滲溜せしは腹膜の肥厚して吸收力を失ひしに因るかるへし又た術中目撃したる腸管廻轉交互の間に存せる癒着の狀と最後に發せし症とを參互して考ふるときは其死は癒着組織の收縮に起因せる腸管阻塞に歸せざるを得ざるあり

○第五號患者 N F

商家の妻齡十九歳大阪の人なり明治十九年一月廿七日入院す

〔病歴〕 天賦薄弱されども大患に罹りしと云ふし月經は十四歳の時始て來り常に順正ありしが昨年七月閉止して復た來らそ十六歳の時結婚せしも未だ受胎せしとあらず明治十七年九月頃より肚腹漸く膨大して止まず昨年八月某

醫の診察を乞ひ穿腹術を受けしも其後再び膨大せり然るも同年十月頃確著の因なく大に其容積を減して目下の状況を呈すと云ふ

〔現候〕 全身羸瘦骨立して歩行し難し肚腹は膨脹すれども緊張せず腹圍の九十仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十仙迷あり内容を取り之を検するも透明粘糊にしてコレステリン結晶を含めり

〔施術〕 同月廿七日切除術を施す腹腔内より多量の粘糊液あり是れ前に囊体の破裂せしを証するに足れり昨年十月確著の因なく大に容積の減せしは破裂の結果に他ならざるを追想し得へし囊体は右卵巣より生したる複房腫よし前面と網膜に癒着し其莖は扁平にして短かし例の如く二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 体温昇らず創口は第一癒合を嘗み三十二日を経て全治退院す本患者は術後稍精神異常を呈し退院後一旦増進したるも醫治に依て全治せり

○第六號患者 W.E.

商家の妻齡四十六歳大阪の人なり明治十九年三月十六日入院す

〔病歴〕 十四年前より肚腹漸く膨脹して遂に呼吸窘迫歩行困難を感ずるに至れるを以て某醫に就て穿腹術を受けたると既に六回お及よと云ふ

〔現候〕 滋養不良あらざれども下肢已に浮腫し肚腹の膨脹して梨子形を呈し其皮下靜脈甚しく怒張してあり腹圍は百十仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十五仙迷あり

〔施術〕 明治十九年四月一日切除術を施す臍の左方より方て囊体と腹壁との間に癒着ありたれども容易に剝離し得たり囊体の左卵巣より生したる單房腫にして水様液九リットル餘を含めり但し一週日前穿腹術を施して内容液十一リットルを漏せり

〔術後経過及び成績〕 施術の翌日より氣管支加答流を發して咳嗽に苦み左腋下部に方て水泡音を認め体温は三十八度に昇り呼吸三十六至に増せり尙ほ續て下利を起し裡急後重を訴ふる等の偶發症ありしも創口の第一癒合を嘗み諸症漸く退き術後三十二日を経て全治退院するに至れり

○第七號患者 R.R.

軍人の妻齡三十一歳東京の人なり明治十九年四月十五日入院す

〔病歴〕 生來強壯なり十六歳の時月華始て開き爾來常に順正なり十八歳の時結婚し曾て一女兒を擧たり七年前肋膜炎に罹り數月を経て漸く治を又數年前氣管支加答流に罹り荏苒漸久して今尙癒せずと云ふ四年前始て下腹の膨脹するを覺ゆしも苦楚おさが故に久しく放置せしが漸く増進して遂に少しく動作の困難を感ずるに至り因て一醫に就て穿腹術を受けしも再び膨脹して現候を呈すと云ふ

〔現候〕 身体未だ甚しく羸瘦せざとも頗る貧血の状ありて呼吸短促し時々咳嗽を發し左胸部の運動乏しく呼吸音弱く肚腹は一般に膨脹して卵巣腫の固有徵候を呈す腹圍八十二仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十五仙迷あり

〔施術〕 四月十九日切除術を施す網膜と囊腫の前面に癒着してあり之を剝離結紮して其大部を剪除し莖の二分して結紮切離す体囊は右卵巣より生したる複房腫おして褐色粘糊液十一リットルを含めり

〔術後経過及び成績〕 當日惡寒を訴る体温三十七度五分に昇り呼吸三十至に増し且咳嗽を發す第二日及び第三日の諸症前日の如し但し惡寒なし第四日に至て体温復常し呼吸二十八次に減し咳嗽鎮止せり第五日晝間平穩よして夜間の咳嗽を發し体温三十八度に昇れり第六日諸症大に緩解す本日縫線を除きしに創口の完全の癒合を爲す爾後順快を経て六月二日全治退院す

○第八號患者 K I.

農家の妻齡五十歲安藝の人なり明治十九年五月十二日入院す

〔病歴〕 明治十六年の春頃肚腹膨大の故を以て余に診察を求めしとあり其際病歴を聞しに十個年前下腹右方より一個の硬詰を生し漸く増大して遂に全腹に充滿し動作に不便を感ずと云へり余診して以て卵巢囊腫と断定し切除術の必要を諭せしも患者之を諾せずして切に膨脹の輕減せんことを望んで止まざりき因て余は穿腹術を施して透明稀薄液を漏せしかば一時の輕快を得たるを以て欣然として去りにき其翌年四月再び來りて穿腹術を乞へり余亦た之を施すこと前年の如し爾後二年を経て三たび來りて曰く屢々穿腹術を受けしを未だ全治を得ず今や根治の手術を受けんとす敢て請ふ速に之を施さんことを

〔現候〕 顔面蒼白色なれども未だ羸瘦せず呼吸短促、心機不齊、食欲缺損、大便秘結等の諸候あり肚腹の膨大して殆ど正圓形を呈す腹圍の八十仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで二十五仙迷あり

〔施術〕 五月廿一日切除術を施す囊体は左卵巢より生きたる單房腫にして透明稀薄液十八リットルを含めり網膜甚たしく肥厚延長してあり故に其大部を剪除す蓋又た頗る廣くして且つ厚し故に之を三分して結紮切離す心機不齊あるが故に迷膿藥施用者大に苦心す又術中術後頻りに嘔吐を發し之か爲め縫合銀線の斷破する等の偶事ありたり

〔術後経過及び成績〕 施術の當夜体温三十八度に昇り且つ頻に嘔吐す其翌日体温常度に復するも嘔吐尙未だ止まず夕刻蛔虫數個を吐出す其後の總て平穩にして創口の第一癒合を爲し身体漸く復して六月廿五日全治退院す

○第九號患者 T T.

農家の妻齡三十三歲河内の人なり明治十九年五月十三日入院す

〔病歴〕 月經の十四歳の時に初て至り十九歳の時結婚し曾て二兒を擧たり昨年二月肚腹膨大の故を以て余に診を求めたり當時其經歴を聞きしに八年前臍下左方に一塊を生し漸く増大して全腹に充滿すと云へり余診して以て卵巢囊腫と断定し論ずるに切除術の必要を以てせしも患者諾せず存りに穿腹術を乞ふ因て同術を施して褐色粘稠液を漏し一時の快を得せしめたり爾後一年餘病勢大に進み家事を執るに堪はず今や斷然根治の術を受けんと欲して來院すと云ふ

〔現候〕 滋養不良ならず貧血の徴候なきも下肢に浮腫あり肚腹の甚しく膨大して其周圍一百仙迷臍より腸骨前上棘突起までは三十仙迷あり按診するに臍下右方に偏して圓形の別体あり患者の述ふる所に據ると三個月間月經を見ずと因て其乳腺を注意せしに乳管色濃く乳頭稍勃張するが如し然れども余未だ妊娠たるを思はず何となれの前年穿腹術を施して褐色粘稠の液を漏せし事實あれりなり五月十八日余親しく内診を行ひて子宮の變大して其頸稍柔軟なるを認めたり余竊に以爲く月經閉止及び乳腺變化あり今又子宮の常ならざるを認む是を或は卵巢囊腫の妊娠を兼たるものに非ざる歟と因て穿腹術を施して内容液を漏し更に細密に検査せしも尙未だ妊娠を決定せしむる能はず然るに同夜俄に腹痛を發し翌朝一胎兒(約三個月兒)を娩出し且多量の出血を伴へり因て其處置上頗る注意を加へたれども不幸にして産褥熱を發し体温三十八度乃至四十度の間に昇降すると四十餘日に及ひたり其経過中或は子宮出血を發し或は腹痛下利を發し或は咳嗽咯痰を發す体力大に衰弱一時に甚た危險の状況ありしが幸に治癒を告ぐるに至れり但し其経過中七月十四日諸症未だ緩解せざるにも拘らず肚腹再び膨脹せるが故に穿腹術を施して内容液七リットルを漏せり

〔施術〕 体力稍復常きたるを以て七月六日を卜し切除術を施す囊体の左卵巢より生きたる複房腫に去て大小數十房より成り且腹壁、盲腸、結腸S字狀部等と癒着あり故に其癒着部を剝離す囊体の容積を減却するに甚た多時

を費せたり

〔術後経過及び成績〕 本患者は發病后殆ど十年を経過す穿腹術を受ゑると數回に及び術前流産に罹り産褥熱を發去て甚た惡候を呈し体温復常せざるを四十有餘日に及び爲に身体大に衰弱し加之甚しき癒着ありて之を剝離するに多時を費す等種々不其の狀況ありえにも拘らず術后極て平穩にして体温毫も昇らず創口は第一癒合を爲し体力速に回復して八月二日即ち術后四週を経て全治を告ぐるに至れり斯患者にして斯結果を見んべと蓋し豫め期せざる所なりき

○第十號患者 H. M.

農家の女齡二十一歳攝津豊島郡の人なり明治十九年九月入院す

〔病歴〕 十七歳の時月華始て開きてより常々順正あり十九歳の時結婚し二十歳の時一兒を産めり昨年二月分娩後臍下左方へ一塊を生し漸く増大して遂に全腹を充滿せり且近頃に至り時として体温昇り時として盜汗を發すと云ふ

〔現候〕 体格中等顔色蒼白全身大に羸瘦し肚腹甚だ膨大す腹圍一百五仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで五十二仙迷あり

〔施術〕 九月十三日切除術を施す瘻体は左卵巣より生したる複房腫にして内容液十三リットルを含めり癒着ありが故に容易に手術を完了す余は術中石炭酸スプレイを用ゆるを例とせしも今回は之を省けり

〔術后経過及び成績〕 當日体温三十八度に昇れり第二日下腹に疼痛を發し且子宮より血液漏出す第三日出血未だ止されども疼痛全く去れり第四日平穩なり第五日縫線を除く創口は第一癒合を營み爾後順快を経て速に全治を告ぐるに至れり

○第十一號患者 H. T.

農家の妻齡五十歳豊前の人なり明治十九年十月十五日入院す

〔病歴〕 天資薄弱曾て痘瘡麻疹及び腸窒扶斯等に罹れり月經は十五六歳の時に始て來り四十二三歳の頃までと順正ありしが其後不整となれり六年前始て右腸骨窩の膨脹するを覺ゆしが其後漸く増進して遂に現候を呈す但し未だ一兒も擧げずと云ふ

〔現候〕 体格中等として貧血羸瘦し肚腹は甚しく膨大して卵巣囊腫の徴候を呈す腹圍八十五仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで三十八仙迷あり

〔施術〕 十月廿一日切除術を施す瘻体は右卵巣より生したる複房腫にして褐色粘稠液七リットルを含み前面にと網膜の癒着あり其網膜は五個に分て結紮剪除し莖は二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 術後胃痛を發せしも速に去まり其他記すべき異常なし縫線は第五日を除く創口は第一癒合を營み十一月十五日全治退院せり

○第十二號患者 S. K.

商家の妻齡二十七歳大阪の人なり明治廿年一月十九日入院す

〔病歴〕 天資薄弱なれども未だ曾て大患に罹りたるを知らず十九歳の時一兒を擧げ其後三箇年間月經を見ざりしが明治十九年八月より同十月まで毎月二三回多量の子宮漏血ありき然れども爾後全く閉止して復た來らず六年前初て肚腹の膨大するを覺ゆしか苦楚なきを以て放置せり然るに二三年前より徐々に増進し近頃に至ては身体大に衰弱して起坐すると能はずと云ふ

〔現候〕 余は從來許多の卵巢患者に接したるも本人の如き最も憐むべき狀況に陥りたるものと未だ曾て見ざる

所なり上半身太た甚しく羸瘦して僅に骨格と皮膚とを以て成れるか如く之に反して腰部及び下肢は甚しく浮腫して少しも動揺とるまよ能はず腹部は非常な膨大緊張して其周圍百五仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで五十三仙迷あり其他呼吸短促、心機微弱にして尿中に蛋白あり常に側臥の位置に在りて自ら其軀体を他側に轉すると能はず大便の如きと臥位に在て排出せり

〔施術〕 一月廿二日穿腹術を施して褐色粘稠の液十四リットルを漏せしに爾後速に尿量増し蛋白減し浮腫去り食思振ひ心肺の状況亦た佳候を呈す二月一日切除術を施す瘻体は右卵巣より生したる複房腫にして内容液八リットルを含み腹壁及び網膜と癒着してあり網膜は二個に分て結紮剪除し其莖亦た二分して結紮切離す

〔術后経過及び成績〕 術后は意外に平穩にして体温昇らず日々に佳候を呈す第五日縫線を除く創口は第一癒合を營む爾後体力漸く常に復して三月一日全治退院す本患者は術前極めて不良の状況ありしが故に斯の如く平穩の経過を取り得へきものと豫め期せざる所なりき

○第十三號患者 N. K.

農家の妻齡三十二歳攝津國武庫郡の人あり明治廿年一月十九日入院す

〔病歴〕 十六歳の時月花初て開き二十五歳の時婚嫁し曾て三兒を擧たり而して二個年前より月經を見ず昨年春頃より下腹漸く膨脹して止まず今日に至て妊娠満月の如き容積に至ると云ふ

〔現候〕 肚腹膨脹するの外他に異常なし検査上卵巢腫の症徴を認め

〔施術〕 一月廿五日切除術を施す癒着なく容易に瘻体を抽出し其莖は二分して結紮切離す瘻体の左卵巣より生したる複房腫にして内容液は極て粘稠と流動せず

〔術后経過及び成績〕 術后嘔氣ありて蛔虫を吐出す又氣管支瘻を發して稍々苦悶を訴たれども速に鎮止せり第五日縫線を除く創口は第一癒合を營めり在院廿五日にして全治退院せり

○第十四號患者 S. K.

農家の妻齡五十一歳豊前中洋の人なり明治廿年一月十一日入院す

〔病歴〕 從來大患に罹たるとあし十七歳の時月經始めて來り二十歳の時婚嫁す曾て九兒を擧たり昨年七月頃初て腹内に小兒頭大の一塊あるを認めたり爾來其塊漸く増大して遂に現候を呈するに至れり但し月經之順正にして今尙は常に違ふとあしと云ふ

〔現候〕 体格中等にして全身肥胖し肚腹膨大するの外別に訴ふる所なし腹圍九十仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで三十五仙迷あり

〔施術〕 二月九日切除術を施す瘻体は左卵巣より生したる複房腫にして内容液五リットルを含み其前面は腹壁に癒着し莖は狭くして且長し之を二分して結紮切離せり

〔術后経過及び成績〕 當日嘔吐あり夜來安眠に就く十日平穩あり十一日氣管支加答流を發して大に咳嗽に苦めり十二日腹痛及び嘔氣を訴へ且子宮より少量の血液を漏す十三日平穩なり十四日縫線を除く創口は完全の癒合を營めり爾來總て異常を發せず三月四日全治退院す

○第十五號患者 T. F.

農家の妻齡三十歳大和國葛下郡の人なり明治廿三年三月入院す

〔病歴〕 十八歳の時月經初て至り十九歳の時結婚し二兒を擧けたり三年前始て臍下左右に各一個の小塊あるを認めたれども其前數月間月經を見ざりしを以て自ら妊娠ありと信し敢て醫療を求めざりき其後月經は常に復し且漸く月を累ぬるとも尋常の妊娠の如く肚腹膨脹せざるか故に初て疾病たるを悟り種々醫治を加へたるも未だ其効を

見すと云ふ

〔現候〕 体格尋常にして滋養亦不長ならず腹内ふ大人頭大の一塊ありて能く移動し卵巣の徵候を呈す

〔施術〕 三月八日切除術を行ふ瘻体は右卵巣より生したる複房腫にして一個の大房と無数の小房より成り其前面の腹壁網膜及び小腸に癒着したり故に容積を減却し癒着部を剝離するに大に時間を費せり而して網膜其他剝離部に結紮を施すこと總て四個處其莖は狭ふして且つ長し之を二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 當日嘔吐を發す第二日より腹痛を發して數日間持長せり第五日縫線を除く創口は第一癒合を營めり第七日月經様の漏血あり三日間持長せり本日体温始て昇て數日間稽留せり但し三十九度を超へたるをなし第十一日創痕の左側に炎症硬結を生し漸く増長して掌大外及へり然れども幸に消散して痕跡をも留めず四月十日を以て全治退院せり余思ふに前上の硬結は腹壁蜂窠織炎にして体温の昇騰せしは蓋し之か爲めならん

○第十六號患者 N K

商家の妻齡四十八歳大阪の人なり明治廿年二月廿四日入院す

〔病歴〕 十四歳の時月經始て開き四十七歳お至て終れり十八歳にして結婚して四兒を擧げたり昨年三月頃より肚腹漸く膨脹し同年八月お至り頃に疼痛を發せしを以て某醫の診察を受けしに腹膜炎と診断せり其後疼痛は治せしが肚腹益々増大して止まらず近頃に至ては下肢に浮腫を生し且つ二週前より子宮出血を發せしよと四回に及ふと云へり

〔現候〕 全身甚しく衰弱して下肢及び腹部に浮腫を發し起臥自在ならず肚腹は甚しく膨大して其周圍九十五仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで五十仙迷あり

〔施術〕 二月廿八日子宮出血を發す同日穿腹術を施して粘稠液六リットルを漏す其後下肢及び腹部の浮腫漸く去

れり三月八日切除術を施す瘻体は左卵巣より生したる複房腫にして二三個の大房と數百個の小房とより成り前面は腹壁に癒着してあり其莖は廣くして且短し例の如く之を處置す大房中の蓄液總て四リットルありたり

〔術後経過及び成績〕 術後極て平穩なり第五日縫線を除く創口は第一癒合を營み体力漸く回復しつゝ、ありしが第二十日に至りて創痕下端俄々腫起し漸く増劇し五日を経て化膿の徵候を呈せり因て之を刺破し膿汁を漏したるに三四日を経て癒合せり爾後復た異候を呈せざりしも体力の復常するに頗る日子を要せり即ち其全治退院を命したるは五月五日なり

○第十七號患者 H B

醫家の妻齡四十七歳大阪の人なり明治廿年三月二日入院す

〔病歴〕 十五歳の時月經初て來り三十六歳にして婚嫁せしに未だ一子をも擧げず三年前より下腹漸く膨脹して止まず随ひて全体漸く衰弱して今は則ち行歩すると能はず穿復術を受たると總て二回ありと云ふ

〔現候〕 体格中等なれども全身大に衰弱して下肢及び下腹に浮腫を來し自用を營むと能はず肚腹の甚しく膨脹して其周圍百三仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十五仙迷あり

〔施術〕 三月三日穿腹術を行ふて褐色粘稠液六リットルを漏せり夜來体温卅九度に昇れるも翌朝平温に復せり同月十七日切除術を施す腹腔内に蓄液あり其量一リットル餘而して瘻体は左卵巣より生きたる複房腫にして五六個の大房と數百個の小房とより成り網膜及び小腸の一部之に癒着してあり容積を減却し癒着を剝離するに稍困難を感したり但し術中大管針を使用せず刀を以て房壁を刺割し其内容液を漏せり出血部を結紮を施すと總て四個處あり其莖の二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 當夜腹痛嘔吐を發したれども速に鎮止せり其後は意外の長経過を取り体温毫も昇らず創口

と満足の癒合を爲し体力速に回復し術后二十日を経て全治退院せり

○第十八號患者 E. T.

職工の妻齡三十歳大阪の人明治廿年四月十六日入院す

〔病歴〕 生來強壯にして月經に異常あり曾て一兒を學たり一昨年春臍下に疼痛を發して同時一塊を生じ其塊漸く増大して十個月を経て一兒を産せり然るに産后腹部の膨脹去らず却て益増大し遂に動作に不自由を感ずるに至れりと云ふ

〔現候〕 滋養未だ不食からされども肚腹極て膨大して其周圍百一十仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで九十仙迷あり

〔施術〕 四月廿日穿腹術を施して粘稠液九リットルを漏し五月四日切除術を施す瘻体は右卵巢より生きたる複房腫にして數百個の大小房より成れり其前面には腹壁及び網膜の癒着せるあり大抵手指を以て之を剝離せられたるも極強固廣大なる纖維素の瘻体と腹壁との間に亘れる者あり絞斷器を用て切斷せり其内容物は粘稠にして殆ど流動せず故に大管鉞の無用に屬す瘻壁と手指を以て破却せ又は小刀を以て刺割せ其莖は二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 當日嘔吐を發す其他異常なき第五日縫線を除く創口は満足すへき癒合を爲す第二十日全治退院す

○第十九號患者 M. K.

農家の妻齡二十七歳攝津國豊島郡の人あり明治廿年五月三日入院す

〔病歴〕 生來強壯かり月經の常お整然たり曾て一兒を學たり三年前分娩後偶臍下に一小塊あるを認めしが日子を累るに従ふて漸く増大し遂に全腹に充滿せりと云ふ

〔現候〕 体格中等にして滋養不食からず肚腹は膨大して其周圍の十仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで三十七仙迷あり

〔施術〕 五月十日切除術を施す瘻体の右卵巢より生したる複房腫にして粘稠液を含めり其莖は狭くして短し癒着あき故に容易に切除し得たり

〔術後経過及び成績〕 當日嘔吐を發す十一日体温三十八度に昇れり十二日頻に咳嗽を發す十三日子宮出血あり十四日縫線を除く創口は第一癒合を爲す爾後總て異候を呈せず順快を得て廿八日全治退院す

○第二十號患者 K. K.

農家の妻齡五十三歳伊豫國喜多郡の人あり明治二十年七月四日入院す

〔病歴〕 天資薄弱なり曾て虎列拉病に罹りしとあり月經は十六歳に始まり四十歳にして終り二十歳の時婚嫁して二男二女を挙げ又流産したると三回ありと云ふ昨年春頃より肚腹漸く膨大して止まず遂に呼吸窘迫を來たし歩行困難を感ずるに至れり曾て穿腹術を受たると三回ありと云ふ

〔現候〕 体格下等にして榮養不食下肢已に浮腫を來し肚腹は膨大して其周圍九十三仙迷あり劔狀軟骨より耻骨縫合まで四十六仙迷あり

〔施術〕 七月五日穿腹術を施して粘稠液少許を漏し六日再び同術を行ふて同様液四リットルを漏せり本日惡寒戰慄あり同九日切除術を施す瘻体の左卵巢より生したる複房腫にして一房は已に破裂してあり故に腹腔内も滲溜せる粘稠液を拭除するに多時を費す其莖は常式の如く二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 術后一二日は平穩あり第三日より下利を發して五六日間持長せり然れども他に異候を呈せず満足の経過を取りて同月二十一日全治退院す

○第二十一號患者 N. T.

商家の妻齡五十六歳大阪の人なり明治廿年八月十二日入院す

〔病歴〕 生來強壯からされども曾て大病に罹りしと云し月經は十三歳にして始り五十歳にして終れり又二十歳の時結婚して三兒を擧たり一昨年五月頃臍の右傍に一個の小塊を生し漸く増長して全腹に充滿せり因て數醫に就き治療を受けたれども未だ効驗あらず近頃咳嗽及び咯痰に苦み全身の衰弱を覺ゆ下肢に浮腫を發すと云ふ

〔現候〕 体格中等あれども榮養悪く呼吸短促して胸内に輕微の水泡音あり腹部は甚しく膨脹して殆ど正圓形を呈し腹壁の靜脈稍怒張す腹圍ハ百四仙迷卵狀軟骨より耻骨縫合までハ五十仙迷あり

〔施術〕 八月三十日早朝穿腹術を施して琥珀色液七リットル許を漏し同日午後切除術を施す囊体は複房腫にして右卵巢より生したり其莖ハ二分して之を結紮切離す内容液四リットルあり術前漏したるものと合すれば十一リットルあり

〔術後経過及び成績〕 當日暮に咳嗽を發して安眠に就くと能はず然れども其後數日間は極て無事なり第五日縫線を除きしに創口は第一癒合を爲せり第十三日より腸加答流を發して一週日餘癒えず一晝夜に二回乃至十三回の下利あり之か爲め全身大に衰弱して一時は下肢及び面部に浮腫を發したれども爾後幸に快路を向ひて遂に全治退院を告ぐるに至る

○第二十二號患者 田 M.

農家の妻齡四十歳播州明石の人なり明治廿年九月廿日入院す

〔病歴〕 生來強壯なり十五歳にして月經始て至り二十歳の時結婚して二男二女を擧たり本年三月頃より肚腹漸く膨脹し種々醫療を加ふれども未だ治せず因て手術を乞ふと云ふ

〔現候〕 体格中等にして榮養亦佳なり全腹甚しく膨脹して卵巢囊腫の徵候を呈す月經と今尙整然として常に違ふ

となしと云ふ

〔施術〕 九月三十日切除術を行ふ囊体は右卵巢より生たる複房腫なり但し小房數百個より成れるを以て其容積甚た減し難く爲に創口を臍上數仙迷の處まで延長せり然れども幸に癒着なく僅に三十五分にて手術を完了せり

〔術後経過及び成績〕 術後直に嘔吐を發し苦悶を訴へ脈搏微細にして心機沈衰す夕刻に至て諸候益増悪し終夜煩悶して安眠に就くと能はず十一月一日嘔吐未だ全く止まらば腹部稍膨脹するが如く脈搏極て微弱にして心機甚沈衰す故に頻に興奮劑を與ふれども佳候を呈せず午後一時頃に至りて綳帶に血液の滲透するを認む依て直に其綳帶を解き縫線を除きて腹腔内を檢せしに腸管廻轉の間に血液の滲溜あり乃ち莖の殘根を求めて之を檢せしに結紮線の弛緩したるを認む依て再ひ之を結紮し腹腔内を拭淨し創口を縫合して舊の如く綳帶を施し尙且心機を奮起せんことを勉めたれども其効あらず五時三十分遂に鬼籍に上れり

○第二十三號患者 O M.

商家の妻齡二十九歳大和國郡山の人なり明治廿年九月十六日入院す

〔病歴〕 生來薄弱かり十五歳にして月經始て至り全年結婚し曾て二兒を擧たり四年前下腹漸々膨脹せるか故に月經常より違ふとなきも自ら妊娠なりと信じて敢て意を介せざり然るに七八個月を経て其膨脹自ら中止せし由り一醫の診を受けしは妊娠あらすと云へり一日肚腹は膨脹に消失して腹痛嘔吐及び下利を發し爲めに一時は苦楚に堪へざりしが數日にして常態に復せり其後下腹漸く膨脹して妊娠七八個月の容積に達し頃前に前記の如き症狀を發せしと既に四五回に及へりと云ふ

〔現候〕 体格營養共に中等あり下腹に見頭大の一塊ありて卵巢囊腫の徵候を呈す患者曰く此塊今より二週許は漸く増大し然る後頃前に消失すへしと余未だ其言を信せずも本人の望に任せ即日入院を許す入院後塊物漸く増大し

十月九日に、膈上四仙迷の處に達し患者尙ほ曰く近日必ず消失せんを同月十五日四時頃に腹痛嘔吐を發し患者の豫言せし如く塊物全く消失し之に代て腹腔内に液体滯溜の徴候を呈したり余以爲く是れ此徴候は嚢腫の破裂に外ならずと午後嘔吐二回下利一回あり十六日嘔吐なく下利一回あり十七日嘔吐頻回にして藥餌を用ゆると能はず且尿量大に減す十八日水様下利五回ありて嘔吐おし食欲稍く振ふ十九日諸症平穩にして腹腔内の蓄液大に減す廿日下利一回あり廿一日月經來り精神の爽快を覺む蓄液益減す廿二日月經止む其他總て佳候を呈す廿三日下腹に再び塊物現出し爾後漸く増大して十一月十六日に膈上四仙迷の處に達したり余以爲く今にして切除せされは近日再び破裂せん因て患者に其旨を告て手術の承諾を得たり

〔施術〕 十一月十七日式の如く切除術を施す嚢体の右卵巢より生したる單房腫として前面には網膜の癒着あり莖の二分して結紮切離す術後嚢体を檢したるに果して破裂の形跡あり長二仙迷幅一仙迷の裂孔よして吉野紙の如き薄膜を以て閉鎖せられてあり

〔術後経過及び成績〕 術後極めて平穩にして少も不良の症候を發せず十二月十四日全治退院す

○第二十四號患者 E. K.

商家の妻齡二十六歳大阪の人あり明治廿一年某日入院す

〔病歴〕 生來強壯あり十六歳にして月經初て來り十七歳の時結婚し十九歳にして一兒を擧たり四年前より下腹漸く膨大して止まざりしが昨年一月頃俄に腹痛を發し同時に其容積大に減したれども爾後再び膨脹せるが故に余に治療を求む當時余の卵巢嚢腫と診斷し切除術を施すの必要を諭したれども之を諾せざりしが然るに入院中一日頃に腹痛を發して腹滿大に減せり數日在院加養し輕快を得て退院せり翌廿二年二月腹滿再發の故を以て更に入院す

〔現候〕 貧血羸瘦し咳嗽咯痰に苦む然れども胸部に著明なる病患あるを認めず肚腹は膨脹して周圍百仙迷劔狀軟

骨より耻骨縫合まで五十一仙迷あり

〔施術〕 二月十四日切除術を行ふ嚢体は右卵巢より生きたる複房腫にして其前面には網膜の癒着あり其網膜の結紮剪除し莖は二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 術後嘔吐咳嗽及び不眠等を發したれども体温毫も昇らず縫線は例日に除き去り創口は第一癒合を營めり爾後日々に順快を経て廿九日全治退院す

○第二十五號患者 M. H.

商家の妻齡三十七歳大阪の人あり明治廿一年三月入院す

〔病歴〕 天資強壯なり十四歳の時月經初て至り十九歳にして婚嫁し二男二女を擧たり明治十九年五月頃始て膈下中央に大塊あるを認めたれども痛楚なきが故に久しく放置せり然るに其塊漸く増大して遂に全腹に充滿したり但し本病發生前は時々下腹に劇痛を發するの癖ありしが今は全く之なく又月經は發病后一箇年許は常々整然として進ふとなかりしが爾後全く閉止して復來らずと云ふ

〔現候〕 滋養不良ならず肚腹膨脹するの外治と思ふる所なきか如し腹圍百四仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合に至る五十二仙迷あり

〔施術〕 三月十三日切除術を施す嚢体は右卵巢より生したる單房腫もえて前面には網膜の癒着あり莖は廣大にして血管豊富に内容液は稀薄透明にして九リットルあり網膜は結紮剪除し莖を二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 嘔吐及び胃痛を發す体温毫も昇らず第五日に縫線を除きしに創口は完全の癒合を爲せり第八日創線の下端少しく哆開したれども數日にして癒はたり其後体力漸く復常して四月十一日全治退院す

○第二十六號患者 Y. I.

農家の妻齡三十八歳土佐國安藝郡の人なり明治廿一年五月十八日入院す

〔病歴〕 生來薄弱なり十七歳の時結婚して二男二女を擧げ流産したること一回あり四年前より下腹に塊物を生し近頃殊に増大して動作を妨げ身体の衰弱を覺ふと云ふ

〔現候〕 貧血の症狀著明なれども未だ甚しく羸瘦せず腹部へ頗る膨大して其周圍一百二十九仙迷筋狀軟骨より耻骨縫合まで七十三仙迷筋あり施術五月廿一日午後二時切除術を施す嚢体は左卵巢より生したる複房腫にして僅に數房より成り前面には網膜の癒着ありたれども容易に剝離す手術は四十五分間にして完了せり

〔術後経過及び成績〕 術後心機漸く沈衰し頻に興奮劑を用ひたれども其驗なく午後八時即ち術後六時を経て遂に鬼籍に登れり

○第二十七號患者 N.S.

勞働者の妻齡二十三歳大阪の人なり明治廿一年十月二十六日入院す

〔病歴〕 天資強壯なり十七歳の時結婚し其後一年を経て月經初て至り未だ一兒も擧げず一箇年前より肚腹漸く増大し近頃に至て呼吸窘迫を覺ゆと言ふ現候体格尋常滋養亦佳なり体温稍昇り脈搏百十七至あり心尖は左第四肋間に在り呼吸稍窘迫す腹圍七十八仙迷筋狀軟骨より耻骨縫合まで三十五仙迷筋あり

〔施術〕 十一月一日切除術を施す嚢体は左卵巢より生したる複房腫にして其前面少しく腹壁へ癒着してあり其莖は狭くして且長し二分して之を結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 第一日及び第二日平穩なり第三日咳嗽を發し体温三十八度に昇れり第四日体温三十九度に昇り咳嗽前日に同し第五日諸症前日の如き第六日咳嗽去り体温殆ど常度に復す本日縫線を除く創口と第二癒合を爲せり爾後記載を要すへき異常なく廿四日全治退院す

○第二十八號患者 M.Y.

無業者の妻齡四十四歳大和國式上郡の人あり明治二十一年十月一日入院す

〔病歴〕 生來薄弱にして月經常に不整なり分娩の有無詳ならず明治九年頃下腹兩側に各一個の圓形物あるを認しも痛楚なきが故に久しく放置せしに漸く縮小して遂に僅に痕跡れみを止むるに至れり然るに本年四月頃腹痛及び嘔吐を發し同時に再び下腹に二個の小圓體を生し漸く増大して今や全く腹腔に充滿し呼吸短促及び心下苦悶を感ずるに至り但し穿腹術を受たるを已に四回に及へりと云ふ

〔現候〕 全身羸瘦して下腹に浮腫あり肚腹は膨大して二個の嚢腫あり一は臍左上方にありて一は臍右下方にあり兩体とも或部は嚢腫の如く或部は固形腫の如くにして按壓を加ふるも移動するを少し余傍に以爲く此患者には手術を企つるも無事に之を完了すると難かるへしと患者も亦切除術を好まずして切に穿腹術を請ふ余は其所望に従ひて之を施すを都て四回に及へり

第一回 十月九日 左嚢三、五リットル右嚢一、二リットル

第二回 同月廿日 左嚢二、五リットル右嚢〇、五リットル

第三回 同月廿七日 左嚢二、四リットル右嚢〇、五リットル

第四回 十一月五日 左嚢二、〇リットル右嚢一、二リットル

右の如く數回穿腹術を施して嚢体の大部と固形腫より成り且つ甚しき癒着あるを確認したるを以て到底切除術を施して全効を收むべきものむらざるを悟れり然るに患者は前日に反して頻に同術の實行を請ふて止まず因て日を卜して之を施行するに決す

〔施術〕 十一月九日切除術を施す左嚢は複房腫のカルシマを兼發したる者にして腹壁と癒着せり故に其容積を減

却し癒着を分離するに頗る困難を極めたれども遂に切除の目的を達し得たり右嚢も亦た複房腫にして固形腫を兼發してあり然れども小腸盲腸虫様垂及び腸首富内面等に癒着せしを以て之を切除し能はざりき

〔術後経過及び成績〕 當日頻りに煩悶して就眠せず翌日煩悶尙未だ止まず加之肚腹稍膨脹するものも如し翌々日諸症益増悪し且つ心機漸く怠りて午前五時遂に斃る

○第二十九號患者 W. T.

商家の妻齡三十一歳大阪の人あり明治廿一年十一月九日入院す

〔病歴〕 生來強壯にして十五歳の時月花始て開き十八歳にして婚姻せしも未だ一子を挙げず七年前始て臍下右方に一小固塊あるを發見す其後月經不正とありたれども其塊と依然として増長せざりき然るに昨年春頃より其塊漸く増大し今日に至ては家務を執ると能はずと云ふ

〔現候〕 体格中等にして滋養不良からず患者の訴ふる所只肚腹膨脹と動作困難との二點のみ腹圍八十七仙迷釵狀軟骨より耻骨縫合まで四十仙迷あり

〔施術〕 十一月十五日切除術を行ふ嚢体は右卵巢より生したる單房腫にして褐色粘稠液六五リットルを含めり癒着なく僅に二十分おして手術を完了す

〔術後経過及び成績〕 術後少しも異變なく總て順快を経て十二月十一日全治退院す

○第三十號患者 Y. K.

商家の妻齡二十四歳攝津國西成郡の人あり明治廿二年十一月十二日入院す

〔病歴〕 生來強壯あらざるも曾て大患に罹りしとなく又未だ一兒も挙げず本年春頃より肚腹漸く膨脹し隨て全身漸く衰弱す但し月經は順正にして常に違ふとなし

〔現候〕 全体羸瘦して貧血の症狀あり肚腹は膨大して不正形を呈す腹圍九十三仙迷釵狀軟骨より耻骨縫合まで四十八仙迷あり

〔施術〕 十二月三日切除術を施す嚢体は右卵巢より生したる複房腫にして琥珀色の稀薄液四五リットルを含めり癒着なきを以て施術は僅に十七分おして完了す

〔術後経過及び成績〕 術後總て平穩の経過を取りて同月二十二日全治退院せり

○第三十一號患者 A. S.

商家の妻齡五十二歳大阪の人なり明治廿一年十月某日入院す

〔病歴〕 生來強壯なり月經は十六歳にして始り二十九歳よして終れり曾て分娩せしとすし十年前始て下腹に一小塊あるを認めしも苦楚なきが故に醫治を加へざりき然るに三年前より其塊漸く膨脹し近頃に至ては呼吸短促を覺る動作に不自由を感すと云ふ

〔現候〕 体格中等なれども身体羸瘦して貧血の症狀を呈し呼吸短促し心機亢進す腹部は極て甚しく膨脹して楕圓形を爲さし其周圍百四仙迷あり

〔施術〕 明治廿一年十一月廿八日切除術を施す左右の卵巢各一個の腹膜外嚢腫を生じてあり右なる者は巨大にして殆ど二十リットルの稀薄液を含み其壁には萎縮延長したる子宮密に之に附着し左なる者は拳大にして亦親しく子宮に連接してあり斯の如き狀況なりしが爲め施術甚だ困難にして二時間餘を費せし抑最初余が内診を行ひし時に當て子宮の位置甚だ高く且移動し難きを認て直ちに其尋常ならざるを感し次余が腹壁を開きて嚢壁の紅色なると許多の血管布蔓するを見て再び其尋常ならざるを感し次に其内容液を漏し盡すも嚢腫全体の創口外に出さるを見て三たび其尋常ならざるを感せしも未だ腹膜外嚢腫たるを悟らざりき然るに偶々嚢壁左側の下部に二個の

塊物の密着するありて余の注意を惹けり因て能く之を檢せしは一は萎縮延長せる子宮にして一は左卵巢の膨脹せる者なり尙細かに之を檢して始て左右腹膜外囊腫の一症たることを確認せり是に於て余は先づ右囊腫（已に内容液を漏せし者）外面の大部より腹膜即ち延展せる廣韌帶を剝離し次に其囊体を子宮骨盤壁及び其底面より分離し其剝離したる過剰の腹膜は三個に分て結紮剪除せり左囊腫も亦廣韌帶の層間に在りて莖を有せず故に子宮と囊体との付接線と結紮して之を切除せり以上の次第なるを以て子宮は左右の支柱を失ひたるにも拘らず之を骨盤内に復納して腹壁創口を縫合し以て手術を完了せり

〔術後経過及び成績〕 數日間は体温昇らず疼痛なく極て平穩あり縫線は第五日に去り創口は第一癒合を爲せり然るに第六日に至て体温頗り昇り其翌日下腹に拳大の一塊を生じて疼痛を伴へり因て消炎法を施したるに幸に五六日を経て全く解熱去塊物も次第に消散して術後三十日を経て全治退院するに至れり

○第三十二號患者 F. N.

醫士の妻齡四十八歳鹿見島の人なり明治廿一年十二月六日入院す

〔病歴〕 生來健康あり十七歳にして月經始て至り十九歳の時結婚せしも未だ妊娠せず二十歳の頃子宮病に罹りて腹部大に膨脹せしも幸に治せり又た月經は常に不順にして毎回疼痛を伴ふと云ふ明治廿年十一月初て臍下方に一塊物あるを發見せしが漸く變大きて今は則ち殆ど全腹に充滿すと云ふ

〔現候〕 体質及び榮養とも不良ならず腹部は膨大して橢圓形を呈す腹圍八十九仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十二仙迷あり

〔施術〕 十二月十一日切除術を施す囊体は左卵巢より生したる單房腫なり内容液は褐色にしてコレステリン結晶を含み其量七リットルあり網膜の一部之に癒着してありたれども容易に剝離す莖は常規如く處置せり

〔術後経過及び成績〕 術後平穩なる経過を取りて廿二年一月四日全治退院す

○第三十三號患者 F. W.

農家の妻齡五十七歳泉州貝塚の人なり明治廿一年十一月三十日入院す

〔病歴〕 天資強壯にして十四歳にして月經始て至り十六歳にして結婚し廿八歳の時肺患に罹り三十六歳の時心臓病に悩みしも幸に全治せり其後は總て無事にして月經亦た順正あり然れども未だ一子をも擧たるとあらず昨年七月臍下に兎頭大の塊物あるを發見せしが其物漸く増大して遂に現候を呈すと云ふ

〔現候〕 体格中等にして榮養亦佳かり肚腹は膨大して周圍八十二仙迷胛骨縫合より劍狀軟骨まで三十五仙迷あり〔施術〕 十二月一日探針を刺入し内容物を取りて之を檢するに褐色粘稠にして卵巢囊腫内容液の狀況を有す同月十九日切除術を行ふ囊体は左卵巢より生したる複房腫されども幸に癒着なく莖は二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 總て平穩の経過を取り廿二年一月十八日全治退院す

○第三十四號患者 O. S.

農家の妻齡三十四歳河州の人なり明治廿三年九月入院す

〔病歴〕 天資強壯ならされども未だ曾て大患に罹らず十七歳にして月經初て至り二十歳の時結婚して四兒を擧たり昨年四月分娩後臍下方に小塊あるを發見せり其物漸く膨大して遂に全腹に充滿したるを以て一醫に診を乞ひ穿腹術を受けしも其後更に膨大して現候を呈す但し経過中俄に劇痛を發して容積の減せしと前後五回に及へりと云ふ

〔現候〕 体格中等にして稍羸瘦し腹部は膨脹して囊腫固有の徴候を呈す腹圍九十三仙迷あり

〔施術〕 明治廿二年九月廿五日切除術を施す囊体は右卵巢より生したる複房腫にして其前面之網膜及び腹壁に癒

若し諸房合して五リットルの粘稠液を含みてあり網膜は剪除し莖は常式に従ひて處置せり

〔術後経過及び成績〕 當日晝間と平穩あり夜來嘔吐二回あり廿六日輕微の腹痛を訴へ吐逆二回あり且夕温三十八度に昇れり其後三日間平穩にして記載を要すへき件なし三十日縫線を除く創口は第一癒合を營めり十月十九日右胸骨窩に抗抵物を生し疼痛を訴へしが幸に大事に至らずして漸く消散し十一月一日全治退院す

○第三十五號患者 M E.

商家の妻齡四十六歳大阪の人あり明治廿二年九月入院す

〔病歴〕 生來強壯ならず十三歳にして月華始て開き二十歳の時結婚せたるも未だ一兒も設けず本年三月臍下右方に疼痛を發すると同時に一個の塊物を現出し漸く膨大して止まず加之五月頃に至て腹水を兼發し下肢及下腹に浮腫を生ず而して穿腹術を受たると都て三回ありと云ふ

〔現候〕 体格中等あれども滋養甚だ不良あり下肢及び下腹に浮腫を來し肚腹の内に膨脹を觸診すれり巨大の塊物ありて其形頗る凹凸不齊あり腹圍八十六仙迷劍狀軟骨より耻骨縫合まで四十仙迷あり

〔施術〕 九月廿六日穿腹術を施して粘稠液七リットルを漏す十月一日下肢に劇痛を發して起坐すると能はざり同日九日切除術を施す腹腔内に多量の蓄液あり囊体ハ右卵巢より生したる複房腫にして其前面にハ網膜の癒着あり之を剝離し三個に分ちて結紮切除し莖ハ式の如く結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 術後極めて平穩にして術前に訴へた下肢の疼痛全く消退す同十三日縫線を除く創口の殆ど第一癒合を營めり然れども體力久まなく復常せず同廿八日腹水の徵候を發す十一月一日下肢に浮腫を生ず同日上肢も亦浮腫す同日頃腹水及び浮腫ともに増進す同十二日心機不齊とある同十九日穿腹術を施して腹水四リットル許を漏す爾後幸よ尿量増加して浮腫消散去腹水復た生せずとて体力漸く復し十二月七日全治退院す

○第三十六號患者 T T.

工業家の妻齡四十二歳兵庫縣下神戸の人なり明治廿二年十月入院す

〔病歴〕 生來薄弱あれども月經は常に整然たり但し未だ分娩したることあらず本年五月臍下左方に一塊物を生じ漸く増長して今は全腹に充滿すと云ふ

〔現候〕 体格佳良ならず全身大に羸瘦し肚腹甚だ膨大して卵巢囊腫兼腹水の徵候を呈し下肢已に浮腫を生じてあり

〔施術〕 入院後三たび穿腹術を施して内容液を漏す即ち十月四日七リットル同廿一日五リットル十一月十日十二リットルを漏す斯の如く屢々穿腹術を行ひて切除術を施さざるは患者に止を得ざる事故あるに因りしなり十一月十七日切除術を施す腹腔内に多量の蓄液あり囊体は左卵巢より生したる複房腫にして無數の小房より成り就中二三個は破裂してあり術前屢々穿腹術を施して漏せし液は其源を此房に資り去ものなるへし而して他の各房は大ならざるが故に大管針を使用し難く隨て全囊の容積を減するに多時を費せり其莖は常の如く二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 平穩の経過を取りて十二月十一日全治退院す

○第三十七號患者 F H.

商家の妻齡四十三歳大阪の人なり明治廿二年十一月某日入院す

〔病歴〕 十六歳の時月經始て至り常に整然たり十七歳にして結婚し既に男子二名を擧たり昨年四月始て臍下左方に梨子大の硬塊を生し漸く増大して遂に肚腹の大部を領するに至ると云ふ

〔現候〕 体格中等にして渾身肥満す咳嗽あれども胸部に著明の病變あるを認めず腹腔内に一個の塊あり妊娠八個月の子宮大にして能く移動す試に其内容を取りて之を檢するよ透明粘稠の液なり

〔施術〕十一月廿七日切除術を施す瘻体は右卵巣より生したる複房腫にして無數の小房よりなりたれども幸に癒若し莖の甚だ廣くして且短し故に切離の後其殘根に嚢壁の一小部を遺存せしに由り其内皮を剝離し更に烙鐵を觸れて焼灼せり

〔術後経過及び成績〕腹痛嘔吐及び咳嗽等を發して苦惱多かりしか三四日にして諸症漸く鎮止せり十二月二日縫線を除く創口の一小部を除く外第一癒合を爲せり本日及び翌三日咳嗽頻發す四日及び五日平穩なり六日創口を檢するに其中央四仙迷許哆開して其底に腸管の呼吸に従て昇降するを見る然れども一滴の膿汁を存せし因て銀線を以て三個の縫合を爲す夜來又咳嗽頻發す七日より十日まで平穩にして記すへき件あり十一日創口を檢するに佳候あり十二日無事なり十三日銀線を除く創口幸に癒合せり爾後順快を経て廿八日全治退院す創口の哆開して腸管の昇降するを見るに本患者を以て始とす再縫合を施して肉芽縁の癒合せしは僥倖と謂ふべきなり

○第三十八號患者 S. I.

商家の妻齡三十三歳兵庫縣神戸の人あり明治二十二年十一月某日入院す

〔病歴〕生來薄弱なり月經の十七歳にして初て至り爾來常に整然たり二十一歳の時結婚せしも未だ一兒をも擧げす六年前咳嗽咯血体温昇騰及び盜汗等の諸症を發し一時大に衰弱せしも幸に恢復して今は胸部に異常を感せずと云ふ十個年前初て耻骨縫合の上際に梅質大の便秘物あるを觸知せしも痛苦あきを以て敢て意に介せずしか其物徐々に増大し今日に至りては臍上に達せりと云ふ

〔現候〕体格中等にして榮養佳良ならず右肺に稍異常あるか如くあるも毫も苦惱を感せず肚腹に大塊あり其容積は妊娠滿月の子宮大なり但し起居動作には未だ不便を感せずと云ふ

〔施術〕二十二年十一月二十一日切除術を施す瘻体と右卵巣より生したる「デムモイド」腫にして大管針を穿刺

するも内容物漏出せず故に瘻壁を切開し手を以て之を除去し其莖を二分して結紮切離せり術後瘻体を細檢するに其壁厚くして内に半流動物と多量の毛髪と含みてあり又内面の一部に上顎齒槽突起の如き骨塊の付着を有りて是より門牙三枚を生し更に其骨塊の上部より方り叢生せる長毛ありて其狀恰も前額に似たり

〔術後経過及び成績〕當日体温少しく昇り夜來腹痛を訴ふ二十二日体温三十八度あり其他記すへき症候あり二十三日腹痛ありて月經様出血あり二十四日腹痛未だ全く去らず二十五日無事あり二十六日縫線を除く創口は第一癒合を爲みたれども一の針孔に膿点ありたるを以て注意して之を處置せしに其後順快を経て十二月二十五日全治退院せり

○第三十九號患者 A. W.

商家の家族齡二十六歳和泉國堺の人あり明治二十二年十一月入院す

〔病歴〕十六歳の時月經初て至り常小殆ど順正あれども時として月に二回及ふことあり未だ結婚せず五個月前より臍下に疼痛を發して一時起臥の自在を失ふることあり其際偶患部一個の抗抵物あるを發見せり而して其疼痛は速に治癒せしも抗抵物の管に消退せざるのみならず次第容積を増して遂に現狀を呈するに至ると云ふ

〔現候〕体格中等なまとも榮養佳良ならず肚腹は緊滿隆出し内部に巨大の塊ありて卵巢腫の徴候を呈す

〔施術〕二十二年十一月二十七日切除術を行ふ瘻体は右卵巣より生したる複房腫にして前部少しく腹壁に癒着しありしも容易に剝離し得たり然れども瘻体と無數の小房より成れるを以て其容積を減するに稍困難を感せり術中内容液少しく腹腔内に流入す因て微温蒸餾水を以て能く腹腔内を洗滌拭淨し其莖は常の如く之を處置せり

〔術後経過及び成績〕當日体温三十八度六分に昇り口渴を訴ふ二十八日体温三十八度あり腹痛惡心及び口渴を訴ふ二十九日總て平穩なり三十日月經様排泄物あり十二月一日諸症平穩なり二日縫線を除く創口は第一癒合を爲め

り此日体温三十八度六分あり三日前日の如し四日平穩あり爾後順快を経て十二月二十一日全治退院す

○第四十號患者 T. T.

商家の妻齡三十七歳土佐國高知の人なり明治二十二年十二月入院す

〔病歴〕 生來健壯なり十四歳にして月經初て至り十八歳の時結婚せしも未だ曾て分娩又之流産せしとあらず常春頃より腹部漸く膨大して今に至るも止まず他に異常を感せずと云ふ

〔現候〕 体格尋常にして滋養亦た佳かり腹腔内に大塊ありて妊娠満月の子宮に似たり但し稍左方に偏在す腹圍九十一仙迷釵狀軟骨より耻骨縫合まで三十五仙迷あり

〔施術〕 十二月十九日切除術を行ふ瘻體は右卵巢より生したる單房腫にして淡黒色の粘稠液を含みてあり其莖は狭くして且長し常の如く二分して結紮切離す

〔術後経過及び成績〕 當日腹痛を訴へ嘔吐を催す体温三十八度五分に昇り且譫語を發す二十日体温前日の如く嘔吐未だ全く止まず二十一日より二十四日まで記すへき件あり二十五日縫線を除きしに創口之完全の癒合を爲せり其後無事の経過を取りて二十三年一月十三日全治退院す

○第四十一號患者 S. Y.

農家の妻齡二十九歳石見國の人なり明治二十二年十二月十日入院す

〔病歴〕 生來強壯あり十八歳又して月經初て至り二十二歳の時結婚し三年を経て一子を學たり二個年前下腹に一個の瘻腫を生し漸く増大して止まず且月經變調し時に或之多量の子宮出血を發するとあり曾て某醫に就て穿腹術を受け内容液を漏せしとあり

〔現候〕 体格中等にして榮養亦佳なり然れども下腹既に浮腫を來し肚腹は甚だ膨大して卵巢瘻の徵候を呈す腹圍

百仙迷釵狀軟骨より耻骨縫合まで四十六仙迷あり

〔施術〕 十二月十七日穿腹術を施して淡褐色の粘稠液十五リットルを漏す十二月二十二日切除術を施す左右二個の瘻腫あり右ある者は巨大の複房腫にして網膜之に癒着す其癒着を剝離し容積を減するに多時を費せり其莖は小にして長し常の如く之を處置す左ある者は兒頭大にして亦複房腫おれども癒着なく容易に切除し得たり

〔術後経過及び成績〕 當日腹痛を訴へ數回の嘔吐あり二十三日腹痛尙未だ全く去らず二十四日口渴を訴へ且失氣するに二回に及へり又子宮より血液を漏出す二十五日平穩にして爽快を覺ゆ二十六日縫線を除く創口は第一癒合を營めり其後の日々に順快を経つゝありしか二十三年一月十二日頻りに腹痛を訴ふるか故に綳帶を解て腹部を檢せしに臍部に硬結物あるを認む其後漸く増長し五十有餘日を経て遂に化膿の徵候を呈せり因て三月九日切開して多量の膿汁を漏し護膜管を挿入し爾後毎日洗滌を行ひしに漸く佳候を呈し遂に癒閉せり四月十二日全治退院す

○第四十二號患者 T. F.

農家の妻齡三十三歳豐後國南海郡の人なり明治二十二年九月某日入院す

〔病歴〕 天資強壯にして曾て大患に罹りしとあし十四歳にして月經初て至り其年に結婚せしも未だ一子を學たるとあらず五個年前偶々右胸骨窩に橙大の硬塊あるを認めたり一時の疼痛を覺るしも醫療を加へて治せり然れども其硬塊の漸く増大して遂に働作に稍困難を感するに至りしか故に一醫に就て穿腹術を受たるとありと云ふ

〔現候〕 体格尋常精神活潑にして營養亦不長ならず肚腹は膨大して不齊形を呈す診査上卵巢瘻腫と斷定せり

〔施術〕 明治二十二年九月二十三日切除術を施す瘻體は右卵巢より生したる複房腫にして暗褐色の粘稠液四リットル許を含み且其中コレステリン結晶あり術中創縁より出血あり假に結紮して之を止む内部に癒着等なし其莖は二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 術後極めて平穩あり第五日縫線を除く創口の第一癒合を認めり其後總て平穩の経過を取り第十七日全治退院す

○第四十三號患者 S M

商家の妻齡四十一歳大阪の人なり明治二十二年十二月某日入院す

〔病歴〕 生來薄弱からず十七歳にして月經始て至り常に整然たり二十歳の時結婚す未だ一兒をも挙げず五個年前始て臍下右方に小塊を生し漸く上左方に向て増長し今と不正形の大塊と成りたり

〔現候〕 体格中等にして榮養佳良ならず肚腹甚だ膨脹して不正形を呈す細かに檢するに二個の囊体あり一は専ら臍上右方小位して著しく突出し一は専ら臍下左方に在て不正形を呈す腹圍九十九仙迷刃狀軟骨より耻骨縫合まで四十二仙迷あり

〔施術〕 明治二十二年十二月二十一日患者の望に従ひ上なる者を穿刺して琥珀色の粘稠液二リットル餘を漏せしに液中コロステリン結晶あり數日よして退院す明治二十三年一月二十八日再入院す腹部の状況は前回の入院時に於けるか如し二月一日下なる者を穿刺して透明の稀薄液五リットルを漏す輕快を得て退院せしに三月二日三たび入院し局所の徵候は前日に同し同月五日腹壁を切開して先づ下ある者を穿刺し腹房腫にして内容液漏出し難し因て刀を以て數房を切割し漸く其容積を減して創口外に之を抽出し其莖は二分して結紮切離す此囊は左卵巢より生したる者に係り然るに腹腔内尙ほ他に一大囊腫あり細か小之を檢するに腹壁及び尿管等に緊々癒着してあり故に無事に切除し得へからざる者と察して之に手を下さす直に腹腔内を拭淨し創口を縫合して術を止めたり

〔術後経過及び成績〕 幸に無事の経過を取り同月二十七日退院す此患者滿二年を経過して今日に至るも殘留せし囊腫は増大せず全休強健にして家事に従事し敢て患る所なきものゝ如し

○第四十四號患者 I F

商家の妻齡二十七歳大阪の人なり明治二十三年二月入院す

〔病歴〕 天資強壯なり月經は十四歳の時初て來り常に順正なり配偶者あれども未だ曾て妊娠したるとならず六個月前左腸骨窩に圓形橙大の硬結物あるを認む其物次第増大して一個月前より常に下腹の擗痛を伴ひ大に歩行を妨ぐと云ふ

〔現候〕 体格中等にして榮養不佳ならず腹腔内に兒頭大の一塊物あり其面不齊にして抗抵強し但し能く移動す

〔施術〕 明治二十三年二月二十六日切除術を施す瘤体と左卵巢より生したるカルコマホして其容積減すへからず因て創口を延長し之を腹腔外に抽出するを得たり其莖ハ式の如く之を處置す

〔術後経過及び成績〕 極めて平穩にして毫も不良の徵候を呈せず三月三日縫線を去りしに創口は第一癒合を爲したるものゝ如し然るに同七日創口の一部少しく哆開せしに由り此部に再縫合を施し十日に至り其縫線を除きしに満足癒合を爲さす爾後隔日一回洗滌して沃度防護を撒布せしに三十一日遂に癒痕を結へり是日退院を命す

○第四十五號患者 O T

農家の妻齡三十二歳河内の人なり明治二十三年一月入院す

〔病歴〕 十六歳の時月經始て至り常に整然たり十八歳にして結婚し曾て一男子を擧たり五個年前臍下中央に梨子大の硬結物あるを認む疼痛及び其他不便なしと雖ども漸く増大して今と則ち全腹を領すと云ふ

〔現候〕 体格中等なれども稍衰弱の狀あり肚腹は一般に膨大するも抗抵強からず腹圍七十九仙迷あり其内容物を取て之を檢するに潤濁して粘稠なり入院後肺に異常を發す因て切除術を猶豫すると殆ど二個月に及へり

〔施術〕 肺臓の異常漸く治するを以て三月二十八日を卜して切除術を施す囊体はデルモイト腫にして大管針を刺

入したるも毛髮之に壅塞して内容物漏出す因て其器を去り針孔を割開して内容物を漏出す莖は常法に従ひ二分して結紮切離せり此莖は右卵巢より生し其壁肥厚して血管に富み乾酪様物と多量の長毛とを含みてあり其他蜜柑大の一塊あり長莖を以て壁の内面に懸り上頸骨狀の骨塊を含み長毛及び歯牙を生してあり

〔術後経過及び成績〕 當日平穩あり夜來腹痛及び嘔吐を發す二十九日体温昇騰し口渴を訴ふ三十日平穩なり三十一日子宮より血液を漏す四月一日縫線を除く創口は第一癒合を發めり爾後順快を経て同十八日全治退院す

○第四十六號患者 T. S.

農家の妻齡四十一歳土佐の人あり明治二十三年四月二十一日入院す

〔病歴〕 十五歳より月經初て至り二十一歳の時結婚し既に一男二女を擧たり三個年前臍下左方に蜜柑大の腫物を生し漸く増大して目下の症狀を呈するに至れりと云ふ

〔現候〕 体格中等にして榮養亦良なり腹腔内に癰腫ありて右方へ偏在し其面不正なり腹圍八十八仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで三十六仙迷あり

〔施術〕 明治二十三年四月三十日手術を施す瘻体は右卵巢より生したる複房腫にして其前面は網膜癒着してあり莖は常の如く之を處置す

〔術後経過及び成績〕 當日腹痛を訴ふ五月一日腹痛尙未だ止まず体温三十七度七分あり二日より四日まで記すへき事をし五日縫線を除く創口と第一癒合を爲せり爾後平穩ある経過を取て二十九日全治退院す

○第四十七號患者 O. N.

農家の妻齡二十八歳淡路の人なり明治二十三年五月八日入院す

〔病歴〕 十四歳の時月經初て來り二十三歳にして結婚す未だ一兒を擧げす三個年前月經多量となり時として月に

二回之を見るを其頃より下腹部より痛を覺ゆると同時に漸く膨脹するを感したれども未だ癰腫あるを認めず然るに其後日を経るに従ひて塊物現出し次第に増大して遂に現狀を呈すと云ふ

〔現候〕 体格中等なれども榮養良からず腹部大に膨脹して其周圍九十八仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで四十九仙迷あり

〔施術〕 五月九日穿腹術を施して粘稠液半リットルを漏し同十四日更に同術を施して三リットルを漏す同十九日切除術を施す瘻体は右卵巢より生したる複房腫にして腹壁及び網膜に癒着し其容積を減するよと殊に困難なるを以て創口を臍上部まで延長して全莖を抽出するを得たり其莖は廣くして且長し二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 術後極て平穩にして記載を要すへき件なし六月九日を以て全治退院す

○第四十八號患者 M. S.

商家の妻齡三十三歳播州姫路の人あり明治二十三年五月初旬入院す

〔病歴〕 生來強壯にして月經は常々整然たり配偶あれども未だ妊娠したるよとわらず三個年前臍下に硬結物を生したれども久しく増大せず昨年七月子宮出血を發す爾來硬結物漸く膨大して全腹に充滿す本年二月及び四月各一回穿腹術を受たりと云ふ

〔現候〕 体格中等なれども甚しく羸瘦す肚腹頗る膨大して卵巢囊腫の特候を呈す腹圍九十六仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで四十四仙迷あり

〔施術〕 五月九日穿腹術を施して淡褐色の粘稠液四リットルを漏し同十六日切除術を行ふ瘻体の左卵巢より生したる複房腫にして腹壁及び網膜と癒着してあり而して各房は大ならず故に大管針を使用する能はず刀を以て房壁を刺割し内容物を漏して全莖の容積を減し得たり各房も含む所の液は其性狀同しからず黃色にして稀薄なるもの

あり白色にして糊状あるものあり又褐色にして膠状なるものあり其莖は二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 迷瘰藥力久しく去らず術後二時間を経て漸く醒覺す夜來下利三回あり体温三十九度より昇る十七日朝体温高度ありしも漸く減退して常度へ復す其他記載を要すへき件あり十八日より二十一日まで平穩なり二十二日縫線を除きしに創口全く癒合し爾後日々順快を経て六月二十一日全治退院す

○第四十九號患者 K R.

農家の妻齡二十五歳泉州の人なり明治二十三年五月二十二日入院す

〔病歴〕 十六歳にして月經初て至り爾來常に整然たりしか昨年九月頃より不正となりて二三个月も閉止せりとあり昨年秋頃臍下左方に鶏卵大の一塊あるを認めたるより此塊久しく依然として異動なかりしか近頃に至て容積俄に増加して今は則ち妊娠七八個月の子宮大に至れりと云ふ

〔現候〕 体格中等あれども榮養不良にして貧血の症候を呈す腹腔内に大人頭大の腫瘤あり能く移動すれども其面甚だ不齊にして且中央に縦溝あるを認む

〔施術〕 明治二十四年五月二十八日手術を施す囊体と左卵巣より生したるデルモイト腫あり幸に癒着なきを以て容易に切除し得たり但し術中呼吸忘り心機沈みて興奮劑を用ゆる等の煩勞を要したり

〔術後経過及び成績〕 極めて平穩なる経過を取りて六月十七日全治退院す

○第五十號患者 I S.

青樓の主婦齡四十歳大阪の人なり明治二十三年六月入院す

〔病歴〕 天資強壯にして未だ曾て大患に罹らず月經の常々整然として違ふところなし曾て分娩及び流産に罹ると各一回あり七個年前初て左腸骨窩部に一腫瘤を生し漸く増大して止まず本年四月に至て腹痛を發す爾來常に腰痛に

苦むと云ふ

〔現候〕 体格中等にして甚だ肥滿す咳嗽あれども胸部に著しき變常なし腹部は甚だ膨大して波動あり其狀恰も腹水の如し腹圍百二十五仙迷劔狀軟骨より耻骨縫合まで四十八仙迷あり試に内容液を取て之を換するに其性狀は稀薄透明にして恰も水の如し

〔施術〕 二十七日式の如く切除術を施す腹壁の脂肪甚だ多く創縁の厚さ六仙迷あり囊体は左卵巣より生したる單房腫にして水様液十三リットルを含みてあり癒着なく莖は常の如く處置す施術僅に三十分にして完了せり

〔術後経過及び成績〕 術後平穩無事欣然として笑を帯ひ且安眠に就きしに日暮より嘔吐を發し苦悶を訴へ終夜眠ること能はず翌日諸症尙依然たり加旃脈搏沈微にして四肢厥冷す遂に衰弱を以て午後二時頃鬼籍に登れり

わり白色にして糊状あるものあり又褐色よして膠状なるものあり其莖は二分して結紮切離せり

〔術後経過及び成績〕 迷朦薬力久しく去らず術後二時間を経て漸く醒覺す夜來下利三回あり体温三十九度よ昇る十七日朝体温高度ありしも漸く減退して常度へ復す其他記載を要すへき件あり十八日より二十一日まで平穩なり二十二日縫線を除きしに創口全く癒合し爾後日々順快を経て六月二十一日全治退院す

○第四十九號患者 K R.

農家の妻齡二十五歳泉州の人かり明治二十三年五月二十二日入院す

〔病歴〕 十六歳にして月經初て至り爾來常に整然たりしか昨年九月頃より不正となりて二三個月も閉止せりとあり昨年秋頃臍下左方に鶏卵大の一塊あるを認めたるよ此塊久しく依然として異動なかりしか近頃に至て容積俄に増加して今は則ち妊娠七八個月の子宮大に至れりと云ふ

〔現候〕 体格中等あれども榮養不良にして貧血の症候を呈す腹腔内に大人頭大の瘤腫あり能く移動すれども其面甚だ不齊にして且中央に縱溝あるを認め

〔施術〕 明治二十四年五月二十八日手術を施す囊体と左卵巢より生したるデルモイド腫あり幸に癒着なきを以て容易に切除し得たり但し術中呼吸怠り心機沈みて興奮劑を用ゆる等の煩勞を要したり

〔術後経過及び成績〕 極めて平穩ある経過を取りて六月十七日全治退院す

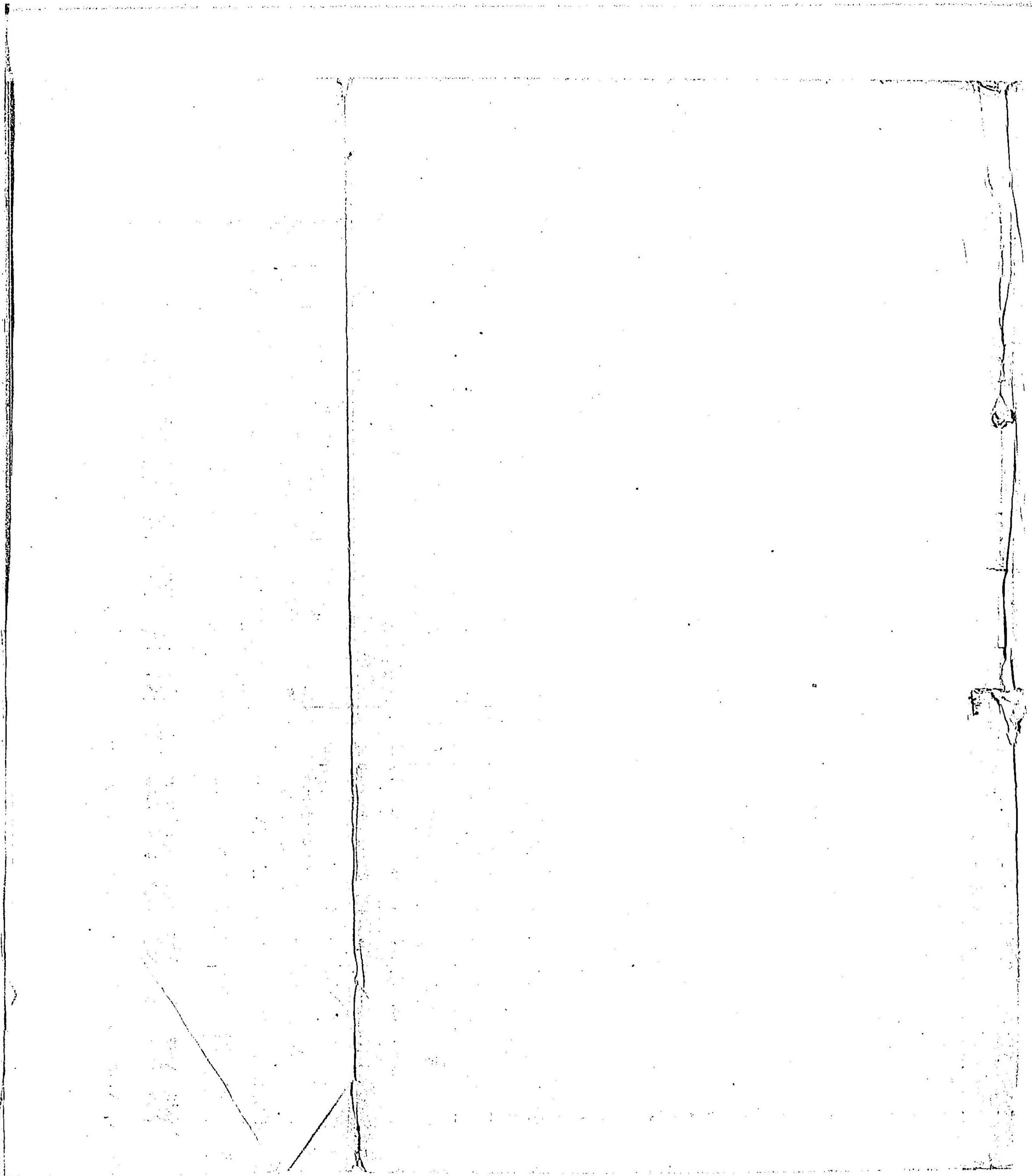
○第五十號患者 I S.

青樓の主婦齡四十歳大阪の人なり明治二十三年六月入院す

〔病歴〕 天資強壯にして未だ曾て大患に罹らず月經の常々整然として違ふとかし曾て分娩及び流産に罹ると各一回あり七個年前初て左腸骨窩部に一瘤腫を生し漸く増大して止まず本年四月に至て腹痛を發す爾來常に腰痛に

卵巢囊腫切除術五十回之治驗一覽表

番號	姓名	職業	年	月	結	分	經	過	滋	養	穿	術	前	併	病	患	種	類	癒	着	癒
50.	I. S.	主遊	農	四	不	詳	既	婚	二	回	七	年	餘	肥	胖	○	○	○	○	○	○
49.	K. R.	農	二十	五	十六	歲	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	○	○	○	○	○	○
48.	M. S.	商	三	十	三	不	詳	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	三	回	○	○	○
47.	O. N.	農	二	十	八	十	四	歲	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	二	回	○	○
46.	T. S.	農	四	十	一	十	五	歲	既	婚	三	回	三	年	餘	良	○	○	○	○	○
45.	O. T.	農	三	十	二	十	六	歲	既	婚	一	回	五	年	餘	良	○	○	○	○	○
44.	I. F.	商	二	十	七	十	四	歲	既	婚	○	○	六	個	月	良	○	○	○	○	○
43.	S. M.	商	四	十	一	十	七	歲	既	婚	○	○	五	年	餘	不	良	三	回	○	○
42.	T. F.	農	三	十	三	十	四	歲	既	婚	○	○	五	年	餘	良	一	回	○	○	○
41.	S. Y.	農	二	十	九	十	八	歲	既	婚	一	回	二	年	餘	良	○	○	○	○	○
40.	T. T.	商	三	十	七	十	四	歲	既	婚	○	○	一	年	餘	良	○	○	○	○	○
39.	A. W.	商	二	十	六	十	六	歲	夫	婚	○	○	五	個	月	不	良	一	回	○	○
38.	S. I.	商	三	十	三	十	七	歲	既	婚	○	○	十	年	餘	不	良	○	○	○	○
37.	F. H.	商	四	十	三	十	六	歲	既	婚	二	回	一	年	餘	肥	胖	○	○	○	○
36.	T. T.	工	四	十	二	不	詳	既	婚	○	○	五	個	月	不	良	三	回	○	○	○
35.	M. E.	商	四	十	六	十	三	歲	既	婚	○	○	六	個	月	不	良	四	回	○	○
34.	O. S.	農	三	十	四	十	七	歲	既	婚	四	回	一	年	餘	不	良	五	回	○	○
33.	F. W.	農	五	十	七	十	六	歲	既	婚	○	○	一	年	餘	良	○	○	○	○	○
32.	F. N.	醫	四	十	八	十	七	歲	既	婚	○	○	二	年	餘	良	○	○	○	○	○
31.	A. S.	商	五	十	二	十	六	歲	既	婚	○	○	十	年	餘	不	良	○	○	○	○
30.	Y. K.	商	二	十	四	不	詳	既	婚	○	○	十	個	月	不	良	○	○	○	○	○
29.	W. T.	商	三	十	一	十	五	歲	既	婚	○	○	七	年	餘	良	○	○	○	○	○
28.	M. Y.	無	四	十	四	不	詳	既	婚	不	詳	十	三	年	餘	不	良	八	回	○	○
27.	N. S.	力	役	二	十	三	十	七	歲	既	婚	○	○	一	年	餘	良	○	○	○	○
26.	Y. I.	農	三	十	八	十	七	歲	既	婚	四	回	四	年	餘	不	良	○	○	○	○
25.	M. T.	商	三	十	七	十	四	歲	既	婚	四	回	二	年	餘	不	良	○	○	○	○
24.	E. K.	商	二	十	六	十	六	歲	既	婚	一	回	四	年	餘	不	良	○	○	○	○
23.	O. M.	商	二	十	九	十	五	歲	既	婚	二	回	四	年	餘	良	○	○	○	○	○
22.	E. M.	農	四	十	一	十	五	歲	既	婚	四	回	五	個	月	良	○	○	○	○	○
21.	N. T.	商	五	十	六	十	三	歲	既	婚	三	回	二	年	餘	不	良	一	回	○	○
20.	K. K.	農	五	十	三	十	六	歲	既	婚	七	回	一	年	餘	不	良	五	回	○	○
19.	M. K.	農	二	十	七	不	詳	既	婚	一	回	三	年	餘	良	○	○	○	○	○	○
18.	E. T.	工	三	十	不	詳	既	婚	一	回	二	年	餘	不	良	自	由	○	○	○	○
17.	H. H.	醫	四	十	七	十	五	歲	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	自	由	○	○
16.	N. K.	商	四	十	八	十	四	歲	既	婚	四	回	一	年	餘	不	良	自	由	○	○
15.	T. F.	農	三	十	十	十	八	歲	既	婚	二	回	三	年	餘	良	○	○	○	○	○
14.	S. K.	農	五	十	一	十	七	歲	既	婚	九	回	七	個	月	肥	胖	○	○	○	○
13.	N. K.	農	三	十	二	十	六	歲	既	婚	三	回	一	年	餘	良	○	○	○	○	○
12.	S. K.	商	二	十	七	不	詳	既	婚	一	回	六	年	餘	不	良	一	回	○	○	○
11.	H. T.	農	五	十	不	詳	既	婚	○	○	六	年	餘	不	良	一	回	○	○	○	○
10.	H. M.	農	二	十	一	十	七	歲	既	婚	一	回	一	年	餘	不	良	○	○	○	○
9.	T. T.	農	三	十	三	十	四	歲	既	婚	二	回	九	年	餘	病	后	衰	弱	二	回
8.	K. I.	農	五	十	不	詳	不	詳	不	詳	十	三	年	餘	貧	血	三	回	○	○	○
7.	K. K.	商人	三	十	一	十	六	歲	既	婚	一	回	四	年	餘	貧	血	一	回	○	○
6.	W. E.	商	四	十	六	不	詳	不	詳	不	詳	十	四	年	餘	貧	血	六	回	○	○
5.	N. F.	商	十	九	十	四	歲	既	婚	○	○	一	年	餘	不	良	一	回	○	○	○
4.	K. K.	商	三	十	六	十	七	歲	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	自	由	○	○
3.	K. R.	農	二	十	十	七	歲	未	婚	○	○	一	年	餘	貧	血	一	回	○	○	○
2.	K. M.	商	三	十	六	十	四	歲	既	婚	三	回	八	年	餘	不	良	自	由	○	○
1.	I. S.	商	三	十	三	十	八	歲	既	婚	○	○	三	年	餘	不	良	自	由	○	○



明治廿五年八月八日印刷
明治廿五年八月九日出版

大阪市北區常安町八十一番屋敷平民

發行者

石西豐藏

印刷者

大阪市北區玉江町一丁目百廿一番屋敷
平民
石西尙一

明治二十三年八月一日印刷

日出版

大阪市北區常安町八十一番屋敷平民

行者 石西豐藏

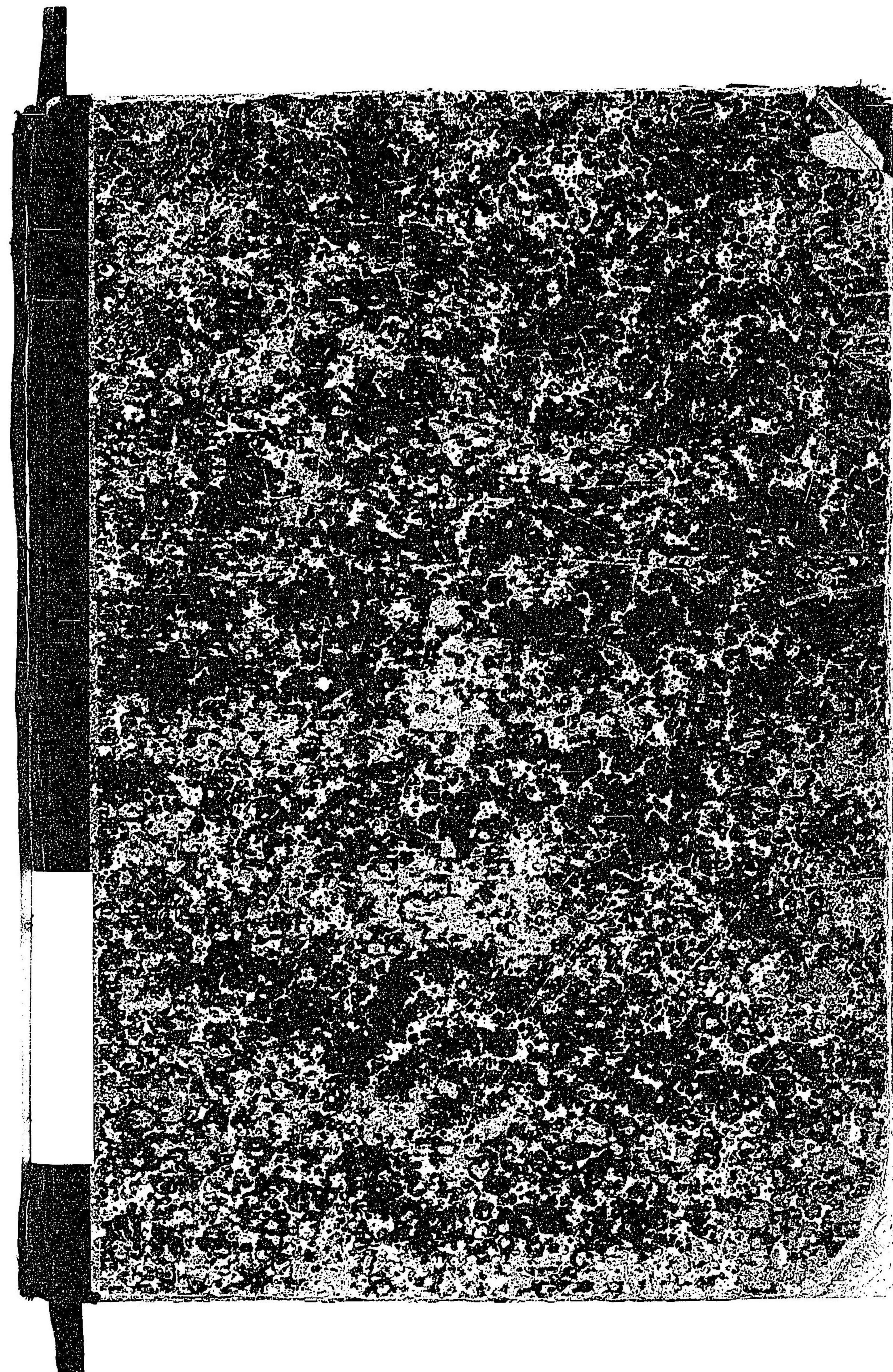
大阪市北區玉江町一丁目百廿一番屋敷平民

刷者 石西尙一

正誤

- 五頁 五行の「腸窩等の」は「腸骨窩等に」の誤
- 六頁 十五行の「腹壁」は「腹壁」の誤
- 全頁 十七行の「また」は贅字
- 七頁 二行の「論」は「論」の誤
- 八頁 二行の「昇承溶」の下に波の字を脱す
- 十一頁 十六行「再ひ」は贅字
- 十四頁 五行の「爾」は「爾」の誤
- 全頁 六行の「不良術の」は「不良の」の誤
- 全頁 十五行の「疲」は「疲」の誤
- 十五頁 七行の「呈す」は「呈せず」の誤
- 全頁 八行の「生れり」は「至れり」の誤
- 二十三頁 四行の「腸骨窩」は「腸骨部」の誤
- 二十八頁 十行の「素」は「素」の誤
- 三十四頁 五行の「施行」に括弧を加ふへし
- 全頁 十二行の「現候」にも括弧を加ふへし
- 三十六頁 二行の「腸首」は「腸骨」の誤

医
9



医
9

059985-000-5

医-9

卵巢囊肿治験録 初号

吉田 顕三/著

M25

CBI-0273

